

令和4年度 第8回「南城市教育の日」 南城市学力向上実践報告書

幼児児童生徒一人一人の「確かな学力」を向上させ
「生きる力」を育む



南城市
「教育の日」



南城市



令和4年度



南城市学力向上推進協議会
南城市教育委員会

第8回「南城市教育の日」学力向上実践報告書

目次

I 「南城市教育の日」

- 1 教育長あいさつ 1
- 2 「南城市教育の日」実施要項 2
- 3 南城市学力向上推進要項

II 実践発表

1 研究指定校

- (1) 令和4年度校内自立支援室事業
 - ①船越小学校
 - ②玉城中学校
- (2) 沖縄県教育委員会研究指定校 体育・スポーツ推進校
船越小学校

2 地域、その他の取組

- (1) 生涯学習課
- (2) 保幼小連携事業 (①②)
- (3) 小中外国語教育

III 公私連携認定こども園、幼稚園及び小・中学校における実践概要

1 公私連携認定こども園・幼稚園

- (1) 玉城こども園
- (2) 知念こども園
- (3) 佐敷幼稚園
- (4) 大里北幼稚園
- (5) 大里南幼稚園
- (6) 久高幼稚園

2 小学校・中学校

- (1) 船越小学校
- (2) 玉城小学校
- (3) 百名小学校
- (4) 知念小学校
- (5) 久高小中学校
- (6) 佐敷小学校
- (7) 馬天小学校
- (8) 大里北小学校
- (9) 大里南小学校
- (10) 知念中学校
- (11) 佐敷中学校
- (12) 大里中学校

○「南城市教育の日」を定める規則

令和4年度 第8回「南城市教育の日」実施要項

南城市教育委員会

1. 趣 旨

授業参観等を通して、本市の学校教育に対する市民の意識と関心を一層高め、学校・家庭・地域の教育力の向上及び充実を図る。

2. 期 日

令和5年1月29日（日） 学校公開【授業参観・地域と協働での取組等】（特別日課）
令和5年1月中 学校公開【授業参観・地域と協働での取組等】（特別日課）

3・場 所

各幼稚園及び小・中学校

4・主 催

南城市教育委員会

5. 参加者

幼小中学校教職員、保護者、学校関係者、南城市民

6. 内 容

- (1)各幼稚園、小・中学校の授業参観等を実施する。＊給食は無し。
- (2)日頃の学力向上推進の実践を学校部会、PTA連合会、子ども会育成連絡協議会等がホームページにて発表する。（負担軽減のため、各種発表大会での発表原稿をそのまま掲載する）
- (3)年間を通して児童生徒の善行賞、活動賞並びに教職員へ教育実践賞を設け表彰する。
表彰は各学校にて校長が行う
- (4)今年度の成果と課題、次年度南城市教育の方向性等を確認する。

7. 役割分担

- (1)児童生徒の表彰及び教職員実践賞等については、各小中学校及び関係団体と連携し教育総務課が担当する。

8. 表彰者の推薦

- (1)児童生徒等の表彰については、教育・文化・スポーツ活動等の分野において顕著な成績を収めた児童生徒及び他の児童生徒の模範となる功績が認められものを学校から推薦する。
推薦に関しては「南城市児童生徒等表彰実施要綱」に基づいて行う。
- (2)教職員の実践賞については、各学校の職員・PTA・地域から評価が高く、かつ実績のあったものを学校から推薦する。推薦に関しては「南城市教育の日」教職員表彰規定に基づいて行う。
 - ①各幼稚園・小学校・中学校、若干名とする。
 - ②校長、教頭は対象外とする。
 - ③表彰該当者がいない場合、表彰は行わない。

令和4年度南城市学力向上推進要項

南城市学力向上推進協議会

1 南城市の教育目標

- (1) 家庭の教育力の向上
- (2) 知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成
- (3) 生涯教育の理念のもと積極的に学ぶ市民の育成
- (4) 市民性教育（シチズンシップ教育）の推進
- (5) 南城市民としてのアイデンティティの確立

2 南城市学力向上推進目標

(1)	知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成 ～「確かな学力」を持ち、主体的に他者と協働して夢や希望を持って生きる子～
	総括目標：幼児・児童・生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」をはぐくむ
年度	推進目標
○令和4年度 ○令和5年度 ○令和6年度	全国学力学習状況調査において小学校全科目全国平均正答率の維持、及び中学校において全国水準まで向上させる。

(2) 加えて、本市の具体的達成目標として、以下の4つを達成する。

【南城市の達成目標】※次年度の全国学力学習状況調査の結果
①「自分には、よいところがあると思いますか」で「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。 ※R3 小6「当てはまる」30.6%「どちらかといえば当てはまる」43.2% ※R3 中3「当てはまる」33.0%「どちらかといえば当てはまる」46.2%
②「学校に行くのは楽しいと思いますか」で「当てはまる」を50%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると90%以上を達成する。 ※R3 小6「当てはまる」42.6%「どちらかといえば当てはまる」43.0% ※R3 中3「当てはまる」39.0%「どちらかといえば当てはまる」40.6%
③「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「当てはまる」を30%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると70%以上を達成する。 ※R3 小6「当てはまる」12.8%「どちらかといえば当てはまる」36.2% ※R3 中3「当てはまる」12.1%「どちらかといえば当てはまる」29.5%
④「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」「当てはまる」を35%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると80%以上を達成する。 ※R3 小6「当てはまる」28.2%「どちらかといえば当てはまる」47.4% ※R3 中3「当てはまる」25.2%「どちらかといえば当てはまる」46.2%

3 成果指標

- (1) 全国学力・学習状況調査を指標とする。
 - 小学校全科目全国平均正答率の維持、及び中学校において全国水準まで向上
 - 平均正答率30%未満児童生徒の割合及び無解答率の減少
- (2) 上記4項目で、児童生徒の達成状況を把握する。

4 達成目標実現の手立て

- (1) 沖縄県学力向上主要施策「学力向上推進プロジェクトⅡ」（令和2年度～令和6年度）及び「令和3年度島尻教育の基本方針」と南城市の現状と課題を踏まえ、「確かな学力」の向上をめざし推進する。
- (2) キャリア教育の視点を踏まえ、幼児児童生徒に「学ぶ意義」や「働く意義」を実感させ「学ぶ意欲」を向上させる取組を推進する。
- (3) 全ての幼児児童生徒を尊重し、認め、受け入れ、教師と幼児児童生徒が共に成長していこうとする教育を推進(実践)する。
(取組例) 人権意識を高める築くための言語環境の整備
・ていねいで、優しく、正しい言葉があふれる学校（教師が模範となる）
- (4) 主体的・対話的で深い学びに迫る授業を推進（実践）する。
(取組例) 授業改善プロジェクトを中核に検討し、各学校の授業改善に活かす。
- (5) 特別支援教育の視点を踏まえ、教室環境の整備・授業（保育）のユニバーサルデザイン等、幼児児童生徒一人一人に寄り添ったインクルーシブ教育の視点に立った学級・学校経営を推進する。

5 具体的取り組み

□「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」と関連付け、3つの視点「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」、5つの方策（具体的取り組み）を通して、各学校の授業改善・学校改善を推進する。
※【視点1】を成果指標とする。

【 行政 】

	方 策	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
方策1	日常化する 【授業改善】	教育指導課 <input type="checkbox"/> 『学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』や『「問い」が生まれる授業サポートガイド』等を活用して、日常の授業を見直し、授業改善を図る。 <input type="checkbox"/> 教職員協働による授業改善の充実に向けた取組 <input type="checkbox"/> 各種取組を通して日常的な授業改善を支援する。		
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	教育指導課 <input type="checkbox"/> インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導を推進する。 ・Q-Uを活用したアセスメントの明確化 ・インクルーシブ教育の視点での学級・学校経営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、環境づくり		
方策3	支える 【学校支援】	教育指導課 <input type="checkbox"/> 学校訪問を通して、学校と教育委員会との連携強化及び教育活動の充実を図る。 <input type="checkbox"/> キャリア教育担当者連絡会を開催し、各校のキャリア教育の充実に努める (学推：授業改善) <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びに迫る授業改善を図る。 (学推：保幼小、小中連携) <input type="checkbox"/> 幼児教育と小学校、中学校の育ちをつなぐ。 (学推：特別支援教育) <input type="checkbox"/> 認知トレーニングの実施、MIM教材の活用を広げる。 <input type="checkbox"/> SST（ソーシャルスキルトレーニング）及びSGE（構成的グループエンカウンター）等の研修会を行い、授業や学級経営を支援する。		

		<p>(学推：外国科教育)</p> <p><input type="checkbox"/>「南城市小中外国語研修会」において、講師を招聘し、小・中連携した外国語科における指導と評価、授業づくりを支援する。</p> <p>(学推：ICT活用)</p> <p><input type="checkbox"/>GIGAスクール構想(1人1台PC配布)におけるPC活用を支援する。</p> <p>(学推：不登校・登校渋り改善)</p> <p><input type="checkbox"/>各学校の生徒指導、教育相談担当とハート教室の連携・協働</p> <p>(学推：学校図書館充実)</p> <p><input type="checkbox"/>司書教諭が連携協働をし、読書を楽しむ児童・生徒の育成を図る。</p> <p>(学推：平和教育)</p> <p><input type="checkbox"/>南城市における平和教育の充実を図る。</p> <p>教育総務課</p> <p><input type="checkbox"/>「子どもとしっかりと向き合い、質の高い授業、教育活動ができる働き方」をめざし、学校業務改善を推進する。</p> <p>生涯学習課</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ少年団や部活動の終了時刻厳守等家庭学習時間の確保と定期的な休養を確保する取組を推進する。</p> <p><input type="checkbox"/>リーダー育成キャンプ、ESLキャンプ、海外短期留学、中国国際交流事業を実施する。</p>
		<p>令和4年度から順次立ち上げるプロジェクト</p> <p><input type="checkbox"/>授業改善プロジェクト（小中連携の視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科授業改善チーム ○算数・数学科授業改善チーム ○外国語（英語）授業改善チーム <p><input type="checkbox"/>特別支援教育プロジェクト</p> <p>インクルーシブ教育の視点での学級経営の充実及び児童生徒一人一人に応じた指導を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-Uを活用したアセスメントの明確化 ・インクルーシブ教育の視点での学級・学校経営 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、環境づくり <p><input type="checkbox"/>ICT活用プロジェクト</p> <p>ICTを活用した授業改善の事例集を作成する</p> <p><input type="checkbox"/>不登校・登校渋り改善プロジェクト</p> <p>各学校の生徒指導担当や教育相談担当者とハート教室が連携・協働して取り組む。</p> <p><input type="checkbox"/>平和教育プロジェクト</p> <p>南城市の平和教育のプログラムを作成する。</p> <p><input type="checkbox"/>学校図書館充実プロジェクト（学校図書館司書連絡会②以降と合同）</p> <p>各学校の司書教諭が連携・協働し読書推進を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>教務主任プロジェクト</p> <p>教務主任の業務および校務改善の意見交換を行う。</p>
<p>方策4</p>	<p>見通す [カリキュラム・マネジメント]</p>	<p>教育指導課</p> <p><input type="checkbox"/>学校課題解決に向けた組織マネジメント機能を高める。</p> <p><input type="checkbox"/>学校評価と関連付けたカリキュラムマネジメントの確立</p>

方策 5	つなぐ 【学校・地域連携】	教育指導課・生涯学習課 <input type="checkbox"/> 保幼小連携と幼児教育の充実を推進する。 <input type="checkbox"/> 小中連携の取組を通して中学校区での児童生徒の育成を推進する。 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有し取り組む。 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動を充実させ、各学校の「地域教育資源」の活用を推進する。 <input type="checkbox"/> 学校における体験活動を推進するため 様々な機関との交流活動の取組を推進する。
---------	------------------	---

【 幼稚園 】

	方 策	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
		<input type="checkbox"/> 幼稚園教育要領が示す、資質・能力を明確にした教育課程を編成する。 <input type="checkbox"/> 幼稚園教育で目標としている心情・意欲・態度を培い、生きる力の基礎を育む。 <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントと関連付けながら、学校評価を実施する。		
方策 1	日常化する 【保育の充実】	<input type="checkbox"/> あいさつや返事ができるようにする。 <input type="checkbox"/> 幼児一人一人の行動理解と予想に基づき、計画的に環境を構成する。 <input type="checkbox"/> 自ら興味・関心を抱いたことに存分に取組む環境と時間を確保する。		
方策 2	そろえる 【組織的共通実践】	<input type="checkbox"/> 遊びを通して心情・意欲・態度を育成されるように指導する。 <input type="checkbox"/> 生活リズムカードを活用して、基本的な生活習慣を確立し、自立心を育む。 <input type="checkbox"/> 幼稚園教諭研修会と園内研修の充実を通して、資質の向上と各園の課題解決に努める。		
方策 3	支える 【発達の支援】	<input type="checkbox"/> 互いを受け入れられる温かい人間関係の構築を図る。 <input type="checkbox"/> 人の役に立つ喜びを味わう活動を行うとともに自分のことは自分でできるように指導を工夫する。 <input type="checkbox"/> 具体的に「ほめる」「認める」ことばかけや、幼児が考えて行動できるようなことばかけをすることにより、幼児のよさを積極的に評価し自己肯定感を育む。		
方策 4	見通す 【学校組織マネジメント】	<input type="checkbox"/> 保育カンファレンスを実施し、協働でドキュメンテーションを作成する。 <input type="checkbox"/> 学力向上年間サイクルの活用 <input type="checkbox"/> アプローチカリキュラムの実践 <input type="checkbox"/> 教育目標を明確にし、PDCAサイクルを通して学校評価を行う。 <input type="checkbox"/> ドキュメンテーションを適宜作成する。		
方策 5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	<input type="checkbox"/> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、接続期カリキュラムを協働で見直し小学校教育との円滑な接続を図る。【幼小連携】 <input type="checkbox"/> 公立幼稚園を結節点として、就学前施設間の連携を図るとともに円滑な接続めざす。		

	方 策	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
		○授業の質的な改善を図り「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 ○学習指導要領を読み込み、授業の焦点化を図る。		
方策1	日常化する 【質的授業改善】	<input type="checkbox"/> 「学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」に基づく授業改善、他者と関わりながら問題解決に向かい「問い」が生まれる授業を目指す。 <input type="checkbox"/> 学ぶ意義・身に付けさせたい力の明確化、指導内容の吟味、指導方法の工夫・改善を行う。 <input type="checkbox"/> ICTや視聴覚機器を効果的に活用したわかる授業の推進を図る。 <input type="checkbox"/> 学年会や教科会、校内研修等を充実させる。		
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	<input type="checkbox"/> (全国学力・学習状況調査)や沖縄県学力定着状況調査「学びのたしかめ」(県Webシステム)を活用した実力調査等の結果を分析し、「授業における基本事項」や「問いが生まれる授業サポートガイド」等を活用して組織的に授業改善に取り組む。 <input type="checkbox"/> 学力向上マネジメントの推進 <input type="checkbox"/> 教師が模範となった人権意識を高め築くための言語環境の整備・推進を図る。 <input type="checkbox"/> 学校経営ビジョンを共有した取組の推進 <input type="checkbox"/> 管理職による日々の授業観察とフィードバックの取組を推進する。		
方策3	支える 【発達の支援】	<input type="checkbox"/> 豊かな心や確かな学力の育成に向けた取組を、特別教育の視点で再確認し、児童生徒一人一人を大切にする教育を推進する。 <input type="checkbox"/> 児童生徒を適宜、具体的に「ほめる」「認める」ことばかけや、児童生徒が考えて行動できるようなことばかけをすることにより児童生徒のよさを積極的に評価し自己肯定感を育む。 <input type="checkbox"/> 学習支援員・特別支援教育支援員を効果的に活用し、個に応じたきめ細かな指導を進める。 <input type="checkbox"/> 将来の夢や希望を形づくる学習で「なりたい自分」を広げ、様々な知識や技能を身につけ「なれる自分」を広げる。 <input type="checkbox"/> 「キャリア・パスポート」の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにする。 ・「キャリア・パスポート」に学びのプロセスや自己評価等を記述することを通して、小中高12年間の学びの履歴をつなぎ、自立した社会人・職業人の育成を図る。 		
方策4	見通す 【学校組織マネジメント】	<input type="checkbox"/> 学力向上年間サイクルの活用 <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントの実施 <input type="checkbox"/> 児童・生徒と教職員が学習の履歴や、年間を見通せる掲示物を作成する。		
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	<input type="checkbox"/> 保幼小中が連携し系統的・継続的な授業改善を推進する。 <input type="checkbox"/> スタートカリキュラムを工夫し、幼児教育から小学校教育への円滑な移行を図る。 <input type="checkbox"/> 小中相互の授業参観や協働での授業実践を推進する。 <input type="checkbox"/> 地域教育資源や本物に触れる活動を通じた取組で「学ぶ意義」や「働く意義」を醸成する。 <input type="checkbox"/> お仕事調査隊、職場見学や職場体験学習を教科等の内容と繋ぐことで取組の充実を図る。		

--	--	--

【 家庭・地域 】

	方 策	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり
	○全ての保護者の学びや育ちを支援する。 ○コミュニティ・スクールの取り組みによる地域とともにある学校づくり			
方策1	日常化する 【家庭教育の充実】	周知・広報 <input type="checkbox"/> 子どもに「働くこと」「勉強すること」の関係や将来の夢や希望について子どもと語り合う。(対話の充実) <input type="checkbox"/> 家族の一員として役割を与えたり、お手伝いをさせたりすることで家族の役に立つことの喜びを味わわせる。 <input type="checkbox"/> あいさつや返事ができるようにする。(規範意識・マナーの向上)		
方策2	そろえる 【組織的共通実践】	周知・広報 <input type="checkbox"/> 幼児児童の生活リズム向上を図るため、「食べて・動いて・よく寝よう」運動に取り組む。(生活リズムの確立) <input type="checkbox"/> 家庭における読書活動を充実させ、言語における能力を培うとともに、豊かな心を育む。(第3日曜日のファミリー読書の実施)(読書動の充実) <input type="checkbox"/> 「地域の子は、地域で守り育てる」4つの共通実践の推進を図る。(大人版GO家運動、親子、地域でコミュニケーションを持とう、大人が変われば子どもも変わる運動、未成年者の飲酒・喫煙防止の取組)		
方策3	支える 【家庭教育の支援】	<input type="checkbox"/> 家庭教育の充実を図るために、「家～なれ～運動」「GO家運動」に取り組む。 <input type="checkbox"/> 県や市が主催するプログラムへ参加し家庭教育の充実に役立てる。 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒が子ども会・スポーツ少年団等の地域活動を通して自主性や社会性を育成する。 <input type="checkbox"/> 地域では、幼児児童生徒の登下校時や帰宅時の安全安心を見守る活動を展開し家庭教育を支援する。		
方策4	見通す 【組織マネジメント】	<input type="checkbox"/> 学校と目指す児童生徒像を共有し、「社会に開かれた教育課程」実現への素地を育む。 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの取り組みで地域と課題や目標を共有する。		
方策5	つなぐ 【学校連携・地域連携】	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの取組みで学校とともに子供を育む。 <input type="checkbox"/> 学校と連携し主体となって「家庭学習」を充実させる。(家庭学習の習慣化) <input type="checkbox"/> 地域の伝統文化行事に関する活動に積極的に参加させ、世代間交流でコミュニケーション能力を育成する。(体験活動と対話の充実)		

南城市立船越小学校	連絡先 <u>TEL:098-949-7108</u> Eメール: funasho-kyoutou.city.nanjo.okinawa.jp
------------------	---

1 実践事項 研究指定：自立支援教室（スマイル教室）の取組

「みんなちがってみんないい、どの子もみんなスマイルを」

2 実践内容

スマイル教室経営計画

(1) スマイル教室とは

市の【校内自立教室事業】の趣旨を踏まえ、南城市立船越小学校校内自立支援教室、通称「スマイル教室」の教室経営目的については以下の通りである。

「スマイル」は、所属学級・学年の支援計画のもと、不登校児童（登校しぶり含む）や教室に入れないなど、様々な課題を抱えている児童の状況に応じて集団生活適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基礎生活習慣改善等のための相談・適切な指導を行う。

(2) 入室対象者

- ① 心理的要因等によって登校できない児童や入室（長時間も含む）が困難な児童。
- ② 学校適応を促進するため、「スマイル」での指導が望ましいと判定された児童。

(3) 入室条件

【児童】・本人に「スマイル」に通室する意思があること

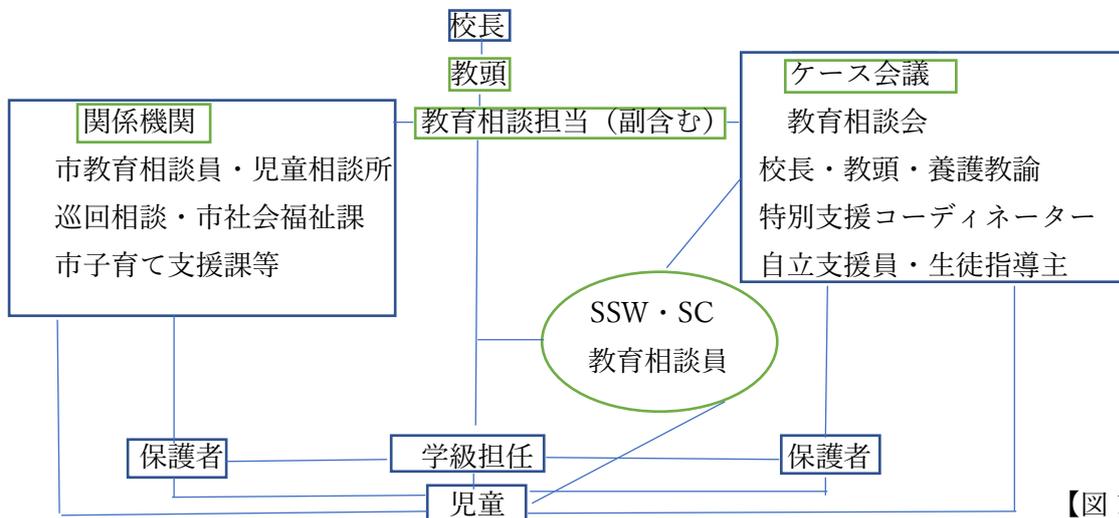
- ・自分なりの目標を持ち、目的に向かった活動に取り組むこと。
- ・行動する前に自分の思いを丁寧に伝えたり、先生方と相談、確認したりしながら行動できるようにする。

【保護者】・保護者に児童を「スマイル」に通室させる意思があること。

- ・学校や「スマイル」の運営を理解し、当該児童社会自立に向けた取り組み等に連携・協力できること。

【校内】・所属学級・学年は、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」を作成し、組織的な支援体制【図1】をとる。

チーム学校（教育相談体制組織図）



【図1】

【自立支援員及び担当者（SSW、教育相談員含む）】

- ・入室申請に係る手続きを踏まえること。
- ・保護者との教育相談会による「スマイル」での過ごし方にて支援を行う。
- ・決定事項について変更等行う場合は、随時教育相談会を設け、臨機応変に対応を行う。

3 説明資料

(1) 支援の実際

本校（全校児童374名）において、不登校児童3名、登校しぶり傾向の児童10名、また、学級での集団活動が苦手な児童等々、数十名の児童がいる。そこで、その数名の児童がスマイル教室を活用している。

スマイル教室の経営計画のもと、児童の諸課題を改善し、学校復帰（学級復帰）等を支援し、社会的自立に資することを目的とするため、以下のような手順により改善を目指す。

(2) 支援方法

先の【図1】の組織図より、個別の支援計画や指導計画をもとに、ケース会議用指導計画【図2】を作成し、校内におけるケース会議【図3】を行う。そこで必要に応じて保護者も交えた教育相談会を計画していく。また、スマイル教室入室決定後に登校した際、保護者とのやり取りを【図4】にて連絡を行う。

個別の指導計画（ケース会議用）

作成日 R4年 月 日（ ）

年 組	性別	男	女	児童名	（ ）	
長期目標						
	学習 (聞く、話す、読む、書く、計算推論等)	行 動				
		不注意、多動、衝動性	コミュニケーション、対人関係、こだわり等			
良いところ						
気になるところ						
現在行っている支援						
学校(学級、校内)						
家庭、地域、関係機関						
短期目標						
	学習 (聞く、話す、読む、書く、計算推論等)	行 動				
		不注意、多動、衝動性	コミュニケーション、対人関係、こだわり等			
必要とされる具体的な手立て						
だれが						
いつから～いつ頃まで						
評価 (最近の様子)						
◎ ○ △						

※特別支援コーディネーターの先生へ提出してください。

【図2】

第1回ケース会議

- 日時 2022年4月22日(金) 学習評価の確認終了後～
- 場所 校長室
- 出席者 校長、教頭、コーディネーター、教育相談担当
自立支援員
- 準備物(資料) 個別の指導計画
- 内容
司会：特別支援教育コーディネーター
※出席者に配布された「個別の指導計画」の説明を介し会を進める。

- はじめのあいさつ 司会(コーディネーター)
- 対象生徒の現状及び実態
(不登校児童・登校しぶり児童・困り感のある児童等)
- 見立ての確認
- 現時点で達成可能な目標を考える 全員
- 手だてを話し合う 全員
- まとめ 司会
- おわりのあいさつ 司会

<座席>

教育相談担当(養護)

自立支援

校長

教頭

コーディネーター

【図3】

令和4年 月 日 (水) <天気> 晴れ ・ くもり ・ 雨							
登校の様子		昨夜の様子		今朝の様子			
登校時間	:	就寝時間	:	起床時間	:		
登校意欲	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> ない	睡眠	<input type="checkbox"/> じゆうぶん <input type="checkbox"/> まあまあ <input type="checkbox"/> たりない	朝食	<input type="checkbox"/> ちゃんと食べた <input type="checkbox"/> 少し食べた <input type="checkbox"/> 食べてない		
<学校への連絡>		<下校後の予定>		<家庭への連絡>			
		<input type="checkbox"/> リッケ <input type="checkbox"/> みるく <input type="checkbox"/> ()					

	月	火	水	木	金
スマイルの時間	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺
かがやきの時間	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺
休み時間	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺	☺☺☺☺
明日やりたいこと					

【図4】

(3) 教室の様子



4 成果

(1) 支援室登校児童に対する支援

- ・GW明け頃から体調を崩し情緒学級で過ごす事が難しくなったため、自立支援教室を活用することとなり、2校時までは自立支援教室、3校時以降は児童デイに通うというリズムを整えていった。
- ・自立支援教室では工作や折り紙制作をし、本人の中で興味がある事は図書館の本から調べ学習することができた。
- ・体調も安定し継続的に登校出来るようになってきたため、2校時目は情緒学級で過ごす事にチャレンジしている。(N.Rさん)
- ・1学期にクラスに馴染めず校内を歩き回る・教師や生徒への他害行為・登校渋りもあり、2学期から自立支援教室を利用する事になった。
- ・学習は知的クラスの担任から課題のプリントを受け取り、時間内に仕上げることを目標に取り組んだ。
- ・処方されている薬の影響もあり1学期に比べ他害行動は減り教室で過ごす事も出来ると判断し現在は学級で対応することになった。(K.Kさん)
- ・1学期は登校できていたが、徐々に体調不良で欠席が増えていった。夏休みに保護者と教育相談を行い、2学期から自立支援教室を利用する事になった。
- ・自立支援教室には同じクラスの幸叶さんと一緒に利用することで学校に行くことができた。(S.Uさん)
- ・1学期はコロナ関連と足の骨折で欠席が多かった。夏休み期間中に保護者面談を行い、2学期から自立支援教室の利用となった。同じクラスの結衣さんも一緒に登校ができた。
- ・2学期も体調不良やコロナ関連の欠席は多いが、支援が途切れないよう登校支援も行いながら関係構築を図る。(K.Kさん)

- ・教室でじっと座っていることができず、友達とのトラブルも多かった。イライラしている時や気持ちが落ち着かない時は校内を一人歩きすることも多かったため、クールダウンできるまでは自立支援教室で対応する形となった。

- ・ゲームや折り紙などのやり取りをメインにコミュニケーションを図りながら支援を行った。またずっと教室で過ごすのではなくゲーム等をして気持ちが落ち着いたところに「あと〇分で教室に戻ろう」といった声掛けをし、時間のメリハリをつけることを意識して行った。(I.Tさん)

(2) 不登校児童生徒に対する支援

- ・保護者との教育相談を行い、本人の体調を考慮しまずは訪問支援から始め、そこから登校へ切り替えた際には4校時から5校時まで過ごすといった短い時間からスタートした。今後も段階的にステップを踏みながら支援に取り組んでいく。(S.Yさん・K.Kさん)

(3) 保護者支援・関係機関との連携

- ・定期教育相談会を週1回開催し、本人の体調の変化や学校での過ごし方について話し合い共通理解を深めていった。SSWにも毎週参加してもらい、家庭での生活環境も聞き取りした上で家庭支援も視野に入れた関わり方を進めていく。(N.Rさん)

- ・教育相談会では教育相談員にも参加してもらい保護者と児童のかかわり方についてアセスメントをし、本人の学校に対する不安感から体調を崩すといった傾向が見られたため、SSWの活用方法や医療機関への受診を提示した。また保護者も子どもに対しどのような対応していいか模索しており、親子が抱える不安や課題を一緒に考え取り除いていけるよう学校も協力・連携しながら支援していくことを伝えた。(S.Yさん)

- ・教育相談会を開き、1学期は登校できない日が続いていたため、2学期はどういった支援の方向性で進めていくかの共通確認を行った。本人が無理なく学校へ通えるようにまずは短い時間からの登校を促し、段階的に時間を延ばしていくような登校を提案した。連続してお休みが続いたときは、家庭訪問をするなど関係性を築いていった。(K.Kさん)

- ・校内でチーム支援を形成し、琥太郎さんが過ごしやすいような環境づくりを行い、関係職員で見守り・サポートを行った。教育相談会では放デイにも参加してもらい、琥太郎さんの将来を見据え、療育の面で児童デイでもSST強化に取り組んでもらうことをお願いした。

- ・本人の学校での困り感に対し児童デイと家庭でも聞き取りをし、対応については三者で協力・連携を取りながら進めていく。(K.Kさん)

- ・1学期の登校渋りから保護者面談を定期的に行い、現在は毎日学校へ来ることができる。

保護者の養育についての考えや方針を聞き取り、学校と放デイが連携して本人のニーズに沿った支援を行っていった。(M.Nさん)

5 課題

- ・今年度のチーム学校としての体制を継続し、職員間の連携や、関係機関との情報共有も密にしながら支援体制を円滑に進めていき、今後も組織化したケース会議→教育相談会を図り、自立支援学級への関わりを確立させる。

- ・家庭状況を把握した上で保護者の思いも受け止めつつ、本人の心情や体調を考慮しながらラポール形成を進めていく。

【作成要領】

学校名 南城市立玉城中学校	連絡先 TEL： 098-948-7105 Eメール： tamachu-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

1 実践事項 研究指定校 タイトル：「安心して通える居場所作りの取り組み」 ～校内自立支援教室「チャレンジルーム」の在り方 ～

はじめに

今年度、沖縄県教育委員会（義務教育課）からの委託で南城市教育委員会から研究指定校として、「校内自立支援室事業」を受けることとなった。背景には、複雑な理由により不登校生や気になる生徒が多いため、その課題解決として本事業を行うこととした。

まず、校内自立支援室の経営計画を作成し、取り組むこととした。

2 実践内容

(1) チャレンジルームの経営計画（経営方針・入室対象者・組織図の紹介）

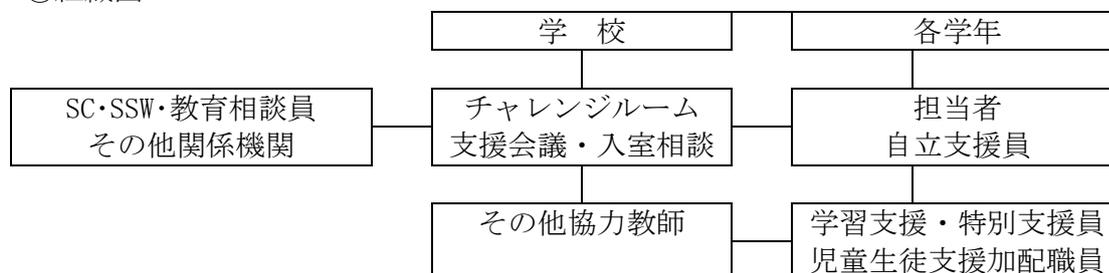
- ① 諸課題を抱える生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の課題の状況に応じて必要な支援を行い、当該生徒にとって安心できる場とする。
- ② 諸課題を抱える個々の生徒の休養の必要性を踏まえ、当該生徒の状況に応じた学習活動が行われることとなるよう、生徒及び保護者に対する必要な情報の提供、助言その他の必要な措置を講ずる。
- ③ 「チャレンジルーム」は、元視聴覚教室（3階）に設置し、1つの教室として扱う。
- ④ 「チャレンジルーム」に担当者を置き調整連携役とする。
- ⑤ 「チャレンジルーム」に常駐する自立支援員を1名配置する。
- ⑥ 「チャレンジルーム」の担当者は、関係する支援職員（学習支援員・特別支援員・SSW・SC・教育相談員・その他協力教師）と連携し生徒の支援を行う。

(2) 入室対象者

- ① 心理的要因等によって登校できない生徒や入室（長時間も含む）が困難な生徒
- ② 学校適応を促進するため、「チャレンジルーム」での指導が望ましいと判定された生徒

(3) 組織図

① 組織図



(4) チャレンジルーム利用の心得

- ① 自分なりの目標を持ち、目標に向かった活動に取り組むこと
- ② 課題や自分の目標に合わせた学習やその他の活動に取り組むこと
- ③ 出席（早退）、遅刻（遅れる）、欠席（休む）などの連絡をすること
- ④ 入室したら、日誌（目標や予定等）を記入し、諸活動に取り組むこと

- ⑤先生方の指示に従った行動をとり、他の生徒に迷惑をかけること
- ⑥行動する前に自分の思いを丁寧に伝えること（お互い確認しあう）
- ⑦帰る前に日誌に1日の振り返りを記入し、提出してから帰ること

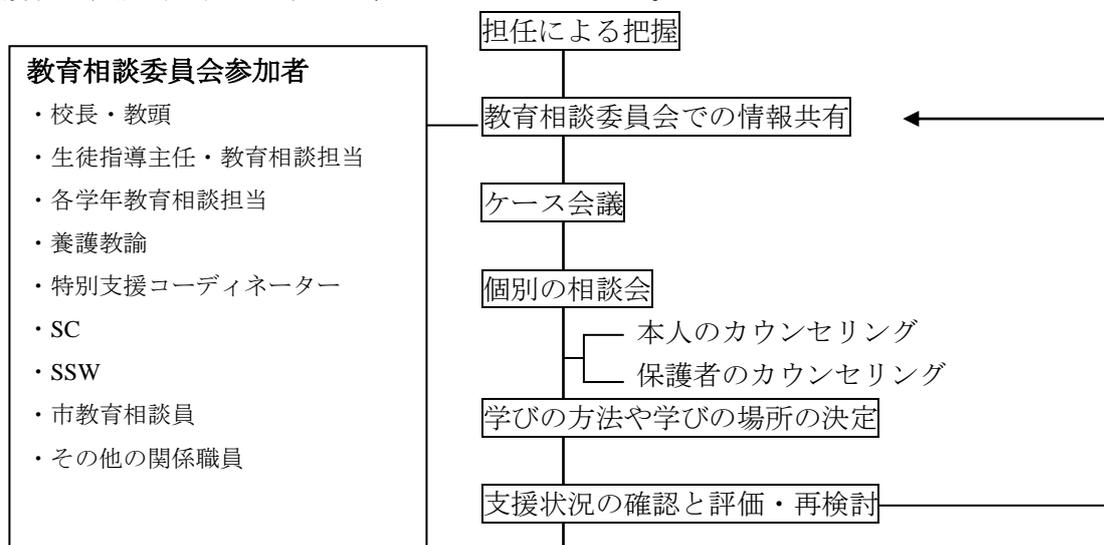
※ チャレンジルームの組織委員会で話し合い、校長先生が決定する

(5) チャレンジルームの利用の約束

- ① 校内自立支援教室は社会的自立や学級復帰に向けた一時的な避難場所です。
自分なりの目標を持ち、目標に向かった活動に取り組みます。
- ② 生徒本人・保護者は学級担任と連絡を取り合い、欠席などの連絡をします。
- ③ 「チャレンジルーム利用の心得」に従い、生徒の迷惑にならないようにします。
※ 約束を守れない場合は、組織委員会で検討の上、利用停止になります。

(6) チャレンジルーム入室までの流れ（個人の居場所の設定）

本校において、不登校の生徒や気になる生徒の対応（組織的な取組の流れ）は下記のようになっている。この流れに沿って、チャレンジルームの利用を提案し、希望があった生徒、保護者と相談会を行ったうえで、入室を決定していく。

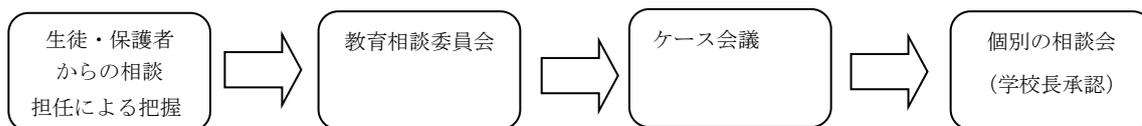


入室までの手順で大切にしたいことは、ケース会議で本人の居場所として適しているかどうかをチームとして検討することである。また、生徒自身が利用の目的を持ち、主体的に利用できるように、個別の相談会において本人の選択権を大切にするすることである。相談会には管理職が参加することでその場で利用について決定できるというメリットもある。

<生徒入室までの手順>

- ① 本人、保護者からの相談、または担任による把握。
- ② 教育相談委員会で当該生徒の情報共有を行う。
- ③ 校長、担任、学年主任、教育相談担当等でケース会議を持つ。
- ④ 個別の相談会で学校長の承認を得る。

* 急を要する場合は、適応指導教室で受け入れながら、後日手順に従い面談を行う。



(7) 心の安定を図る取り組み

- ①スライム作り
- ②折り紙

- ③ミサンガ作り
- ④掲示物作り
- ⑤ストローで星作り
- (8) 時間割の作成
- (9) 学習について
 - ①課題学習
 - ②基礎学習
- (10) 基本的生活習慣の改善
 - ①健康チェック
 - ②今日一日の流れの確認
 - ③日誌の提出

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

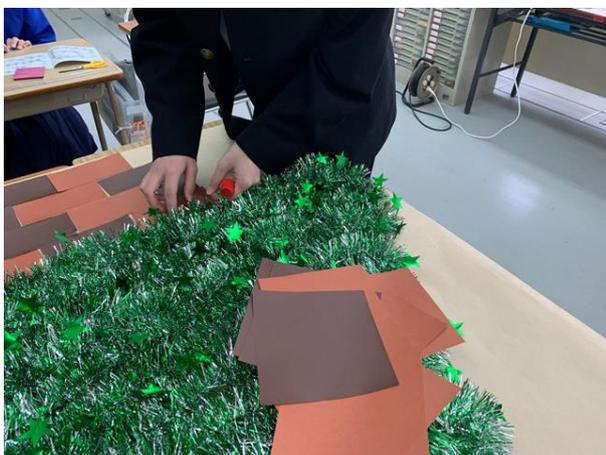


○それぞれ生徒の状態に合わせて個室で過ごしたり、大部屋で過ごしたりしてオンラインで授業を受けたり課題に取り組んでいる。

自活の時間を設けて気持ちの切り替えのための時間にする生徒もあり、各々で目的を決めて過ごしている。

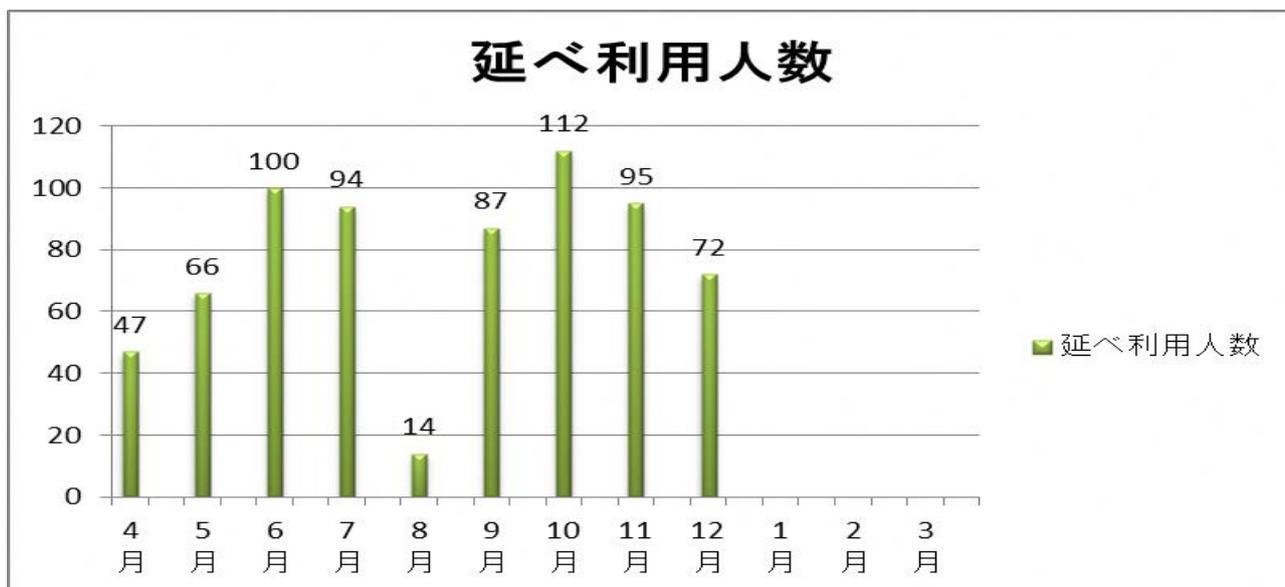
○テストの時には個室のようにせず全学年混ぜて受けている。

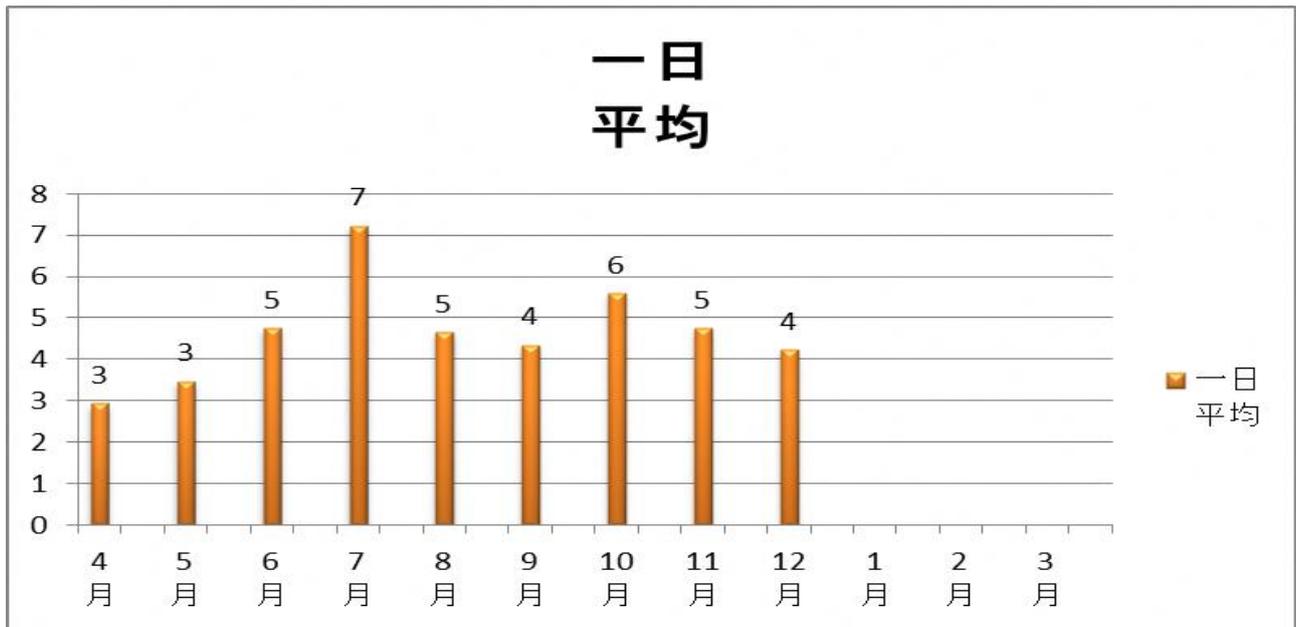
○それぞれの授業内容や取り組みが異なるため、ヘッドセットをチャレンジルームの全生徒に配布し音や声に配慮をしている。



○12月に入りクリスマスの掲示物を作ってもらおうと授業で作り始めたところ、普段は個室で過ごしお互いに距離を感じている生徒同士が自然と修学旅行などの話になり次第に受験や二年生の頃の話になり、「掲示物を作る」という一つの目標に向かいお互いに協力したり案を出し合ったりする姿がみられるようになり、それ以降はお互いの距離はなくなり元気な声でお互いに話すようになりその日を境に自分のクラスへ行くことができるようになった生徒もいる。

2022年度チャレンジルーム利用状況												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日数	16	19	21	13	3	20	20	20	17			
延べ利用人数	47	66	100	94	14	87	112	95	72			
一日平均	3	3	5	7	5	4	6	5	4			





4 成果

- 学校への登校に困難を示す生徒や登校しぶりのある生徒が安心して過ごせる居場所を作ること
で、休みが減り、登校できるようになった生徒が増えた。
- 個別の相談会を行うことで本人や保護者の願いに添った支援を考え、実践することができた。ま
た、それにより自分の意志を伝えられる生徒が増えた。
- 生徒同士が交流する活動を取り入れることで、コミュニケーション力を育むことが出来た。
- 自立活動を通して一緒に制作等を行い、達成感を味わうことで笑顔が増え、自己肯定感を育むこ
とができた。
- 少しずつ学級との関わりが増え、実際に学級復帰をすることが出来た生徒もいる。
- 「〇〇の時間に教室へ行く」など自分で選んで教室に行く目標を見つけて行動できる生徒が増え
た。
- 技能教科（音楽・美術）、5教科の先生方が空き時間等を利用し、学習指導に当たった。

5 課題

- チャレンジルームの利用を停止せざるを得ないケースもあったので、利用の申し込みの手順や利
用目的の確認などを丁寧に行うようにしていきたい。
- 1人ひとりの生徒の学習や生活の課題に合わせた対応を行う必要があるが、まだ不十分である。
- 4月に一度だけしか入室していない生徒がいたので、改善したい。
- チャレンジルームの学習指導に週に1回でも各教科を時間割に組み込んでいけるようにしたい。

研究テーマ

「すべての子がいきいきと活動し、伝え・認め合う体育学習」
～仲間とともに活動し、楽しさや喜びを共感できる授業を通して～

南城市立船越小学校

全校児童数

(男子名 女子名)

全クラス数

教職員数

1 体育学習における本校の課題

- 運動意欲・体力の二極化が見られる。
- 苦手な運動に対して、積極的に取り組めない児童がいる。
- 勝敗にこだわるあまり、運動することの楽しさを味わうことのできない児童がいる。
- 考えたことや判断したことなど仲間に伝えることに課題を持つ児童が多い。

2 課題解決に向けた主な取り組み

- ①授業改善を推進し、意欲的に運動に取り組む児童の育成を目指す。
- ②体育学習における環境づくりを進める。

3 取組の内容

①授業力向上を目指した校内研修の実施

本校は令和4年度より「体育・スポーツ推進校」として沖縄県教育委員会の指定を受けており、体育学習の研究に取り組んでいる。本年度は以下の内容で、体育学習の研究を進めてきた。

研修内容	講師及び指導助言者
理論研修 「各運動の特性や魅力について」	沖縄大学教授 嘉数 健悟
体力づくり・体育指導改善講習会	東海大学教授 大塚 隆
第3学年校内研代表授業 「跳び箱運動」	豊崎小学校教諭 喜名 正人 (体育科指導コーディネーター) 糸満南小学校教諭 宮國 智士 (体育専科)
第1学年校内研代表授業 「マットを使った運動遊び」	島尻教育事務所指導主事 上原 立誠
第2学年体育専科校内公開授業 「マットを使った運動遊び」	沖縄大学教授 嘉数 健悟 船越小学校教諭 金城 裕治

理論研修では、各運動の特性を踏まえた授業づくりや運動場面におけるアナゴロン（類似の動き）の重要性を教わった。意欲的に運動に取り組めない児童の要因として、運動を楽しむための基本的な動きが身に付いていないのではないかという点に至り、単元全体を通して「基礎感覚作り」を行っていくことを全体で決定した。例えば、跳び箱運動の単元では、「体の支持」「体を支持しながらの体重移動を」「腰を頭より高く上げる（逆さ感覚）」「高さのある場所での前転」等、跳び箱運動の技につながる基礎感覚を身に付ける為、基礎感覚作りの場として「跳び箱サーキット」を設定した（図1）。各エリアで様々な動きを経験することにより、楽しみながら跳び箱運動の技につながる基礎感覚を身に付けることができる。また、用具の準備がほとんど必要のない「動物歩き」（図2）「馬跳び」なども取り入れ、誰でも手軽に継続して基礎感覚づくりが行えるように工夫した。

県立武道館で行われた「体力づくり・体育指導改善講習会」には全職員が参加し、体育館のコートやボ

ールを使った簡単な体づくり運動を実際に体験し、2学期以降の授業の中で実践した。



図1 「跳び箱サーキット」



図2 「動物歩き」

また、2学期以降は校内研代表授業2本、体育専科校内公開授業行った。それぞれの授業の様子を以下にまとめる。

(1) 第3学年校内研代表授業 単元名「いろいろな技ができるかな？」(器械運動領域 跳び箱運動)
授業者：津波古 淳

ア. 目指す児童の姿

- 運動に意欲的に取り組むことができる。
- 自己の課題を見つけ、仲間と協働して課題解決に取り組むことができる。
- 見つけた技のポイントを仲間や教師に伝えることができる。
- 仲間の動きや技のできばえを伝えることができる。
- 技がうまくできたときの動き方や気付いたことなどを伝え合う際に、仲間の考えを認めようとしている。
- 仲間と良好な関係を築こうとしている。

イ. 具体的な手立て

- 仲間とともに活動する「シンクロ跳び箱」の設定
- 跳び箱運動を楽しむための基礎感覚づくり「跳び箱サーキット」の設定
- 技ができる喜びを味わわせるための場づくり(課題別練習の場)
- 自己の課題を見付けるための掲示物の工夫
- 見るべき視点を明確にした伝え合い活動の設定

ウ. 実際の授業の様子



肋木を使った踏み切りの練習



うちわを使って技のできばえを伝える児童



自己の課題を見つける場面



クロームブックを使い授業の成果を記録

エ. 成果と課題

- 児童一人ひとりが授業の流れをきちんと把握し、活動することができた。
- うちわを活用することで、どの児童も仲間に課題ができていたかどうか伝えることができた。
- 跳び箱サーキットを設定することで主運動の動きへとつなげることができた。
- △仲間に見て欲しいポイントを申告して試技を行う。
- △踏み切り、着手、着地など技のポイントをきちんと押さえる。
- △スモールステップの場を設定する。

(2) 第1学年校内研代表授業 単元名「うきうき！わくわく！マットランドであそぼう！」

(器械・器具を使った運動遊び領域 マットを使った運動遊び)

授業者：太田 真弓

ア. 目指す児童の姿

- 運動が苦手な児童も、自分なりの目標をもって活動することができる。
- 運動が苦手な児童や支援を要する児童も含めた全員が授業に参加することができる。
- 工夫した動きを友達や教師に伝えることができる。
- 活動中に仲間を応援することができる。

イ. 具体的な手立て

- マットを使った運動遊びを楽しむための基礎感覚づくり
- 遊びの要素を取り入れた場作り
- 考えたことを友だちに伝える「キラキラタイム」の設定
- 運動感覚を言語化したオノマトペの活用

ウ. 実際の授業の様子



キラキラタイムで遊び方を紹介



友だちと一緒に肋木逆立ち



身に付けた動きを使って遊びを楽しむ児童

エ. 成果と課題

- 児童が自分達で場を選び、意欲的に運動遊びに取り組むことができた。
- それぞれのマット遊びの場で遊び方を工夫する様子が見られた。
- 児童がオノマトペを使い、動きのコツを発表することができた。
- △場を多く設定した際の安全面の確保。
- △振り返りの視点（感想だけではなく、考えたことや工夫したことなどもあるとよい）。
- △友だちを応援する際の語彙の量を増やす。

(3) 第2学年 体育専科校内公開授業 単元名「マットフェスティバルをかいさいしよう！」

(器械・器具を使った運動遊び領域 マットを使った運動遊び)

授業者：城間 盛覚

ア. 目指す児童の姿

- 遊び方を工夫して、運動遊びを楽しむことができる。
- 考えたことや発見したことなどを発表や学習カードなどを通して表現することができる。
- 仲間に肯定的な声かけをしたり、仲間の頑張りを称賛したりすることができる。

イ. 具体的な手立て

- 遊び要素をプラスした運動遊びの場をつくる。
- 遊び方を工夫する視点を示す。
- 遊び方を委ねる場面を設定する。
- 仲間を称賛する機会と喜びの気持ちを表現する機会を設ける。

ウ. 実際の授業の様子



坂道マットで前ころがり



ジグザグマットで前ころがり



仲間と揃えて背支持倒立



目標の高さまで肋木逆立ち



お手玉に当たらないように前転がり



お手玉を踏まないように川跳び

エ. 成果と課題

- 従来のマット遊びに、遊び要素をプラスしたことで児童が夢中になって活動に取り組む姿が見られた。
- 「遊び方を工夫する視点」をもとに、遊び方を児童に委ねたことで、教師の発想にはない新しい遊び方が生まれた。
- △3学年につながる動きのポイントを押さえる。
- △「遊びを工夫する時間」を確保するためのタイムマネジメント。

②令和4年度に作成した教具



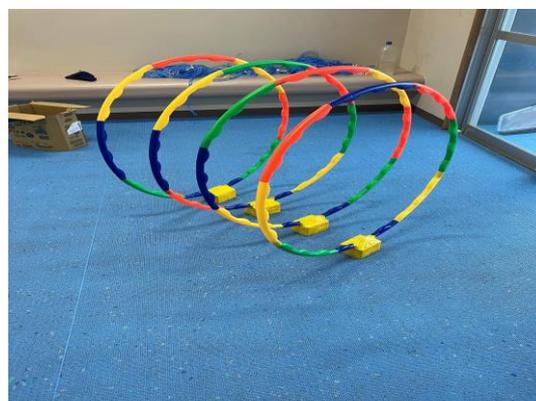
立ち幅跳び用手作りメジャー



木材とゴムひもとテニスボールで走り高跳び用支柱



ポールとゴムひもで走り高跳び用支柱



ブロックを使ってウエイトフラフープ



プラ板を活用した大型掲示板



プラスチックバットに養生カバーを巻いた
テーパーボール用バット

団体名 南城市教育委員会生涯学習課	連絡先 TEL : 098-917-5369 Eメール : syougai@city.nanjo.okinawa.jp
----------------------	---

1 実践事項 (③)

タイトル：「南城市の社会教育事業」

2 実践内容

- ① 公式LINEを活用した若い世代のボランティア確保と連携
- ② 地域人材を活用したスポーツ教室の実施
- ③ 新型コロナの影響により中止となった海外短期留学に代わる県内ホームステイ事業

3 説明資料

- ① 公式LINEの活用について

地域学校協働活動においては、玉城地区、知念地区、佐敷地区、大里地区にあるそれぞれのボランティア団体と学生ボランティアが地域コーディネーターと連携し学校支援を行っている。また、若い世代がボランティアに参加しやすいよう公式LINEアカウントを活用して連携を図っています。

LINE公式アカウント

**ボランティア情報を
配信しています！**

**普段の様子は
タイムラインで★**

南城市学校支援ボランティア

南城市では小・中学校の児童・生徒を対象に学習やクラブ活動、
環境整備等のサポートを地域ボランティアで行っています。



あなたの得意★や好き♡、
今までのキャリア🎒や経験➔を生かして

できるときに、できることを、
できることから、始めてみませんか？

活動の様子



どなたでも参加OK!!まずはお問合せください☆

② 地域人材を活用したスポーツ教室

【野球教室】

南城市出身の独立リーグ出身者や甲子園出場者を講師として市内の中学生を対象に野球教室を実施しました。参加した中学生は技術や知識だけではなく、野球をするうえでの心得や精神面も学んだ様子でした



野球教室の様子【南城市ホームページ】

<https://www.city.nanjo.okinawa.jp/nanjo-diary/1635405905/>



【陸上教室】

南城市青少年育成市民会議が共催した陸上教室は、10月11日に黄金森陸上競技場（南風原町）、13日と19日に南城市陸上競技場で開かれ、地区陸上大会に出場する市内の小学生が参加。全国大会で実績を残した南城市出身の講師が、種目別に基本動作など丁寧に指導しました。



陸上教室の様子【南城市ホームページ】

<https://www.city.nanjo.okinawa.jp/nanjo-diary/1668418776/>



③ 県内ホームステイ事業

南城市では、毎年アメリカ合衆国へ中高生を派遣する海外短期留学事業を実施していますが、近年は新型コロナウイルスの影響により海外へ渡航することができないため、代替事業として県内のホストファミリー宅にてホームステイを行う「まちなか留学」を実施しています。この事業を通して、英語学習の意欲を向上させ、異文化理解と国際社会に適応する能力、資質の向上を図ります。

沖縄県内市町村
海外短期留学実行委員会
(南城市・北中城村・中城村・東村)

まちなか留学
HELLO WORLD!

本物の国際交流に
チャレンジ!

異文化体験×英語×SDGS

令和3年度 県内留学事業

10月～11月

事前研修

【仲村秀一郎氏 オンライン講話】

沖縄から飛び出し世界で活躍する先輩の話聞こう！



【特別英語講座】

英語でカッコイイ
「自己プレゼン」を
作ろう！



世界の教室をつなぐ
WORLD CLASSROOM

【システムを利用した英語プレゼン練習＆オンライン国際交流】

①音声認識システムを使って、自分の英語プレゼンを点数化、お手本の音声聞きながらブラッシュアップ！



②ブラッシュアップした英語プレゼンを海外の生徒に披露！

【まちなか留学（県内留学）】

①日帰りホームビジット

県内外国人宅を訪問し、一緒に料理体験や異文化交流♪



②まちなか留学2日間



県内外国人宅で生活を共にし、まるごと異文化体験＆国際交流！

【オンラインSDGs実践者講話】

14 海の豊かさ
14.5

県内でSDGsを実践する活動家の話を聞こう！



4 成果

- ① 学校支援ボランティアの高齢化が課題とされていた中、公式LINEを活用し若い世代のボランティア参加が増えて、数多くの大学生が地域学校協働活動に参画し始めています。
- ② 地域の人材がスポーツを通して、これまで培ってきた技術や知識を地域の子どもたちへ還元し、学びのサイクルを実践することができた。
- ③ 新型コロナウイルスの影響で、数多くの事業が中止となる中、学びの機会を止めないよう「まちなか留学」を実施し、英語学習や異文化体験の機会を創出することができた。

5 課題

- ① 地域学校協働活動の課題としては、地域から学校への活動と共に、学校から地域への活動も実践できるようコーディネーターを中心に学校と地域課題を把握し、課題解決につながるよう取り組んでいきたい。また、その活動がコミュニティスクールへつながるよう緩やかなネットワークづくりに尽力していきたい。
- ② スポーツを通じた学びのサイクルを実践することができたことを好事例にし、その他文化活動や語学学習など幅広い分野で地域人材を活かした活動へ繋げていきたい。
- ③ 南城市では海外短期留学や ESL キャンプなど英語や国際交流など学習機会の提供を行ってきたが、そこで学んだ子どもたちが将来的にその経験やスキルを地域に還元できるような道筋を作っていくことが課題である。

令和4年度 南城市保幼小連携事業実践報告

南城市教育指導課・子育て支援課

1 目的

- (1) 幼児期の発達や学びを小学校教育へ滑らかに接続すると共に幼児教育の充実を図る。
- (2) 小学校教育への接続が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する等の連携を図る。
- (3) 南城市内幼稚園を結節点として、各地区の保育施設（玉城・知念・佐敷・大里地区・法人保育園・認定こども園等）と小学校の連携体制を構築する。

2 実施場所

南城市立幼稚園、南城市立小学校、公私連携型認定こども園、南城市内保育所・認可こども園、

3 取組内容

- (1) 南城市内全校区で保幼小連携の体制を構築する。
 - ・各校区で年間計画を立てる。各校区の実情を踏まえ独自性のある取組みをする。
- (2) 幼稚園、保育所、認可こども園、小学校と調整し、幼児・児童の交流会を実施する。
 - ・幼児・児童間の交流会を通して双方に互惠性のある連携にする。
- (3) 保育参観、授業参観、接続期のカリキュラムの作成等の合同研修会を企画、実施する。
 - ・保幼小職員の幼児教育と学校教育について相互理解を深める。
 - ・幼児期の発達や学びが小学校へ滑らかに接続し連続性のある連携をする。

4 保幼小連携の必要性

- 幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の段差が大きすぎる。
- 幼児期では、その段差を幼児自身が乗り越えられる力を育てることが大事。
- 小学校では、幼児期の育ちを土台にした小学校教育をスタートしていく必要がある。

5 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るために

- 幼児の発達や学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の可視化と共有をする事を通して接続する。又、接続期カリキュラムを通して滑らかな接続をする。
- 市内の子ども達が「どの小学校へ行っても安心して学ぶ」「どの幼児施設でも同じ教育を受けて安心して小学校へ」と見通しをもち、どの子も楽しく学ぶことができるようにする。

6 令和4年度 南城市が目指す目標

- 接続期カリキュラムを各施設で実施し、各小学校区で協働・検証・改善する。
- 各幼児教育施設（保、幼、こ）はドキュメンテーションを作成する。成果物として実践事例集を作成し持続可能を目指す。

7 保幼小連携の実際

(1) 全体的な取り組み

回	授業・保育の様子	内容・(方法)	参加者・備考
1		<p>◎公開授業〈百名小学校〉4月15日</p> <p>「授業を通してスタートカリキュラムの検証」</p> <p>公開授業 8:15~10:00</p> <p>指導助言及び講話 14:30~15:45</p> <p>講話: 学びにつなげるスタートカリキュラムの充実</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>	<p>公開授業は一部の関係者のみ参観</p> <p>合同研修会はオンラインオンデマンド配信。</p> <p>視聴者名 28名</p>
2		<p>◎公開授業〈馬天小学校〉5月20日</p> <p>公開保育 10:40~11:25</p> <p>合同研修会 15:30~16:45</p> <p>グループ協議7グループ(事例を基に)</p> <p>講話: 「幼児期からつながる生活科」</p> <p>~主体的・対話的で深い学び~</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>	<p>公開授業関係者のみ参加者: 40名</p> <p>保育園・こども園 13名</p> <p>幼稚園・小学校 18名</p> <p>行政 11名</p> <p>*オンデマンド配信</p>
3		<p>◎公開保育〈松の実こども園〉8月2日</p> <p>公開保育 8:50~10:00</p> <p>合同研修会 10:30~12:00</p> <p>当園の保育動画を観て育ちを語り合う</p> <p>講話: 乳幼児期の育ちを小学校へつなげる</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>	<p>公開保育者を限定する参加者: 58名</p> <p>保育園・こども園 19名</p> <p>幼稚園 3名、小学校 12名</p> <p>中学校 2名、行政 22名</p> <p>その他 3名</p>
4		<p>◎実践発表会〈大里北小学校〉8月15日</p> <p>合同研修会 15:30~16:45</p> <p>「スタートカリキュラムの実践発表」</p> <p>発表者: 古堅 桂子氏 大里北小学校</p> <p>指導助言及び講話: 興儀 毅氏氏</p>	<p>参加者: 43名</p> <p>保育園・こども園 14名</p> <p>幼稚園 5名、小学校 12名</p> <p>その他 2名、行政 15名</p> <p>オンデマンド配信</p>
5		<p>◎公開保育〈バンビ保育園〉10月20日</p> <p>公開保育 8:50~9:50</p> <p>指導助言及び講話 10:30~12:00</p> <p>グループ協議7グループ(保育参観の視点)</p> <p>講話: 乳幼児期の保育を小学校へつなげる保育</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>	<p>参加者: 42名</p> <p>保育園・こども園 22名</p> <p>幼稚園 2名、小学校 5名</p> <p>その他 5名、行政 8名</p>
6	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 幼児が作成した保育ドキュメンテーション </div>	<p>◎公開保育〈大里北幼稚園〉11月24日</p> <p>公開保育 8:50~10:00</p> <p>合同研修会 10:40~12:00</p> <p>講話: アプローチカリキュラムについて</p> <p>~幼児期で遊び込むことの大切さ~</p> <p>講師: 宮城 利佳子氏</p>	<p>参加者: 44名</p> <p>保育園・こども園 14名</p> <p>幼稚園 7名、小学校 1名</p> <p>その他 8名、行政 14名</p>
<p>3月「保育ドキュメンテーション実践事例集」の発行</p>			

(2) 公開授業・公開保育の振り返り（公開授業実施校・公開保育実施園より）

<p>第1回4/15 百名小学校</p> <p>スタート期の 授業参観</p> <p>連携だより 第1号発行 5月13日</p>	<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南城市接続期カリキュラムの基本方針（平成3年9月作成）を受け、新たにスタートカリキュラムを作成し、取り組み始めることができた。幼稚園、保育所での遊びを生かしながら、登校後の時間を過ごせるように、教師が意識して取り組んでいる。 ・のんびりタイムやなかよしタイムを取り入れることで、昨年に比べ登校しぶりが少なくなった。一年生の遊びのコーナーで上級生も一緒に遊ぶ姿があり、自然に異年齢の交流の場になっている。
<p>第2回5/20 馬天小学校</p> <p>幼児期からつ ながる生活科</p> <p>連携だより 第2号発行 7月15日</p>	<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムの取り組みにより、早登校する子が増え、泣いて登校する子がほとんどいなかった。子ども同士の会話が増え、集団遊びなどがスムーズにできていた。 ・子どもたちにそれまでの体験などを聞いて、どんなことをやりたいのか聞き出して授業展開を計画することができた。 ・見つけたことを伝える手段や方法を子どもたちが主体的に考えて、地図を作ったり、写真を撮ったり、メモをとったりして発表することができた。
<p>第3回 8/2 松の実こども 園</p> <p>乳幼児期の育 ちを小学校へ つなぐ</p> <p>連携だより 第3号発行 9月20日</p>	<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を迎えるにあたり指導案の指摘から幼児教育を見直す機会となりました。
<p>第4回8/15 大里北小学校</p> <p>スタートカリ キュラムの実 践事例発表</p>	<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度からの理論研修や公開授業(馬天小学校の学校探検) 公開保育(松の実こども園)を通しての気づきや学びを授業実践に生かすことができた。 ・昨年度や一学期の実践を振り返ることで與儀参事や講師の利佳子先生から助言いただいた事を二学期からの授業改善に生かせると確信している。 ・スタートカリキュラムを更に研修し深めていきたいという意欲が沸いた。
<p>課 題</p>	<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と3月の変容を児童自身が自覚できる授業実践と学習のまとめが必要である。 ・遊びを通して新たな遊びを生むという年間を通した継続的な実践(計画)に挑戦したい。 ・学級の学習に固定せず学級枠、学年枠を外した活動にも挑戦したい。
<p>改善策</p>	<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけたことを伝え合う場面で、タブレットの操作に集中してしまい、友達の発表を注意深く聞くことができなかった。 ・安全確保のために図工室や家庭科室に教師を配置すると、子どもたちの様子が見えない場面がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人で探検している子の安全管理。
<p>改善策</p>	<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するときは、ペアやグループなどの小集団でさせると、緊張しないで発表できる。 ・写真を見るとどんな場所にいったのかわかるので、教師からの問いかけに答えてもらい様子を把握できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで探検するようにさせる。

<p>連携だより 第4号発行 11月10日</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・4月の「学校探検」が教師先導の「学校案内」になってしまっていることに気づいた。 ・スタートカリキュラムがその年の1年生担任だけの実践になっている。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での全職員によるスタートカリキュラムの研修を行う。 (8月2日にいただいた資料 『幼児期の終わりまで育ってほしい姿』の読み合わせ等) ・可能なら紙面でもいいので市内他校の実践を情報交換したい。
<p>第5回10/20 バンビ保育園</p> <p>乳幼児期の育ちを小学校へつなぐ</p> <p>連携だより 第5号発行 12月9日</p>	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を意識し、園のカリキュラムを見直す良い機会となりました。(子どもが主体となる保育を考えると、週2回のリトミック、幼児体育は、保育士主導になってないのかそれを含めて・・・) ・子どものつぶやきに耳を傾け、やりたい意欲がもてるような対話的な会話を意識する事で、子ども達の、発想イメージから展開される遊びを、見守りながら時には一緒に遊び込むことが出来るようになりました。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の利佳子先生からのアドバイスから、自然物を園庭に増やす事で、更に遊びの発展へと繋げていけたらと思います。(廃品等を利用し玩具作り) ・週案の見直し
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・園のカリキュラムを見直す。 ・指導計画の作成でコドモンを活用する際は、話し合いを行い、子どもの姿、ねらい、内容がしっかりと記入できるような原本を作成したい。
	その他 (感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会に何度も来園して頂き、公開保育当日を迎える事ができました事に感謝致します。公開保育は園のこれまでの保育、そしてこれからの保育を考えていく上では、必要な事だと思います。指導課の先生方の子ども達への思いは回を重ねる度に十分に伝わりました。また、今回の合同研修会で他の職員との繋がりができ、他の施設(幼稚園)へ行く事ができよい刺激となりました。
<p>第6回 11/24 大里北幼稚園</p> <p>アプローチカリキュラムについて考える ～幼児期で遊び込むことの大切さ～</p>	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育を全体で振り返り、指導案を作成することで幼児理解や環境の見直しにつながった。 ・色々な保育の捉え方・考え方・見方に気付かされ、具体的に課題が見えてきた。 ・子どもたちは、色々な人に見てもらうことで、自信を持って遊びを紹介していた。 ・自分が経験したこと、楽しかったことなどを、人に伝え、聞いてもらえる喜びを味わうことができた。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・園側として、小学校の先生方にも、子どもたちの遊びの様子を見て頂くために積極的に声をかけ、参加してもらえよう配慮が必要である。 ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを計画する際に、相互に共通理解を深めていく必要がある。 ・遊びこむための環境(人的・物的)の再構成が必要と感じた。遊び込めていない子に目を向け、一緒に楽しめるような援助の仕方・手立てを工夫する必要がある。 ・生活面の着脱の仕方の再確認と環境への配慮が必要である。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送りの際に、是非幼稚園の様子を見ていただき、情報交換・共有できるようにする。 ・次年度も保・幼・こ・小学校の授業や保育を参観し合い、相互の理解を深め、小学校へ滑らかに接続できるようにする。
<p>ドキュメンテーション 3月頃作成</p>	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの園が保育ドキュメンテーションを作成し、子ども達の育ちを丁寧に読み取るようになった。・園の玄関に掲示しているドキュメンテーションに保護者、職員等よく見ているので会話のきっかけや情報の共有になっている。
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間内で、どう作成するかどの園も課題に感じている。
	対応策	<ul style="list-style-type: none"> 色々な園の事例や作成方法を観たり聞いたりしながら対応していく。

(3) 南城市保幼小連携プロジェクト委員会

〈趣旨〉

学びの連続性を重視した保幼小連携の充実を図るため、子どもの発達や学びについて協議し接続期の教育内容や方法の見直しを行い、より充実したカリキュラムを作成し幼児期から児童期への教育の充実を図っていきます。

〈構成メンバー〉 13名

こども園長1名、保育園長3名、幼稚園教頭1名、小学校長1名、教育指導課3名、子育て支課4名

〈取組みの経過〉

第1回 令和4年4月20日(金) 13:30~15:00 会議室215 参加者13名

協議内容：令和4年度の年間計画の確認

＝令和4年度南城市が目指す目標＝

- (1) 接続期カリキュラムの実施・検証・改善。
小学校スタートカリキュラムの検証。振り返りを実施し成果を教育指導課へ報告する。
- (2) 各小学校・幼児施設でドキュメンテーションの実施。幼稚園(4園)、保育園(18園)、こども園(6園)、実践事例集を作成し持続可能を目指す。
・小学校(9校)に関しては令和5年度、ドキュメンテーションの作成実施をする。

決議事項：保育ドキュメンテーション実践事例集の作成について

- 市内保育所・幼稚園対象に地区ごとに研修会を実施する。5/27・5/31・6/1
- 保育ドキュメンテーションを通して保育の振り返りと保育の質の向上に役立てる。
- 構成メンバーに、教育指導課長、子育て支援課長2名を追加し15名にする。

第2回 令和4年6月17日(水) 14:00~16:00 会議室219 参加者17名

協議内容：

- 接続期カリキュラムについての講話〈與儀参事〉
- リーフレットの検討(グループ協議5名、3グループに分かれて検討)

決議事項：○3グループで協議した内容をまとめ就学時健診に保護者に配布する。

第3回 令和4年9月2日(金) 14:00~16:00 会議室215 参加者18名

協議内容：

- 幼保小の架け橋プログラムについて(文科省大杉課長の動画を視聴して意見交換)
- 令和5年度版リーフレットの配布について→就学時健診の時に配布する。

決議事項(課題)

- 動画を視聴して南城市、小学校がどのフェーズに位置するかを確認する。
- 保育所では主体的な保育を模索している途中である。保育所での取り組みをどのように保護者に「幼保小の架け橋プログラム」を伝えるか課題である。
- 幼稚園の場合は、接続期カリキュラムを小学校と一緒に作成していない。幼保こ小の職員と一緒に作成する必要があると実感している。

◀ **ワクワク!! 楽しみ1年生 小学校ってどんなところかな?** ▶ 令和5年度版



第4回 令和4年12月13日（金）14：00～15：30 庁議防災室 参加者13名

協議内容：

- 令和4年度 保幼小連携事業の振り返り
- 令和5年度保幼小連携事業計画（案）について
- 南城市幼児教育センター「シンポジウム（案）」

決議事項：

- 次年度の保幼小連携は範囲を縮小して参加しやすい夏休みに実施する。
- 保幼小中のタテのつながりを意識し中学校の参加を推進することに努める。



8 成果・課題・改善策

(1) 成果

- ①第1回、第2回の小学校授業参観から、こども園、保育園、幼稚園の公開保育第6回まで連続して学びのタスキをつなぎ、学び合う合同研修会ができた。
- ②公開授業や公開保育園に向けて指導案の作成や諸準備を幼児教育アドバイザー等と行い、実施後は講師の宮城利佳子先生から専門的な分析とご助言をいただき、学びの多い振り返りとなり、保育・教育の質の向上につながった。
- ③合同研修会後の振り返りを「保幼小連携だより」合同研修会終了後に発行する。幼児教育施設や小学校に送信し全職員で共有することができた。又、合同研修会の様子をオンデマンドで発信し視聴後の感想を回収し次回の参考に生かすことができた。
- ④保育ドキュメンテーションの実践事例集の作成を3月ごろ完成予定。
保育ドキュメンテーションを作成する中で、保育者は子どもの学びを可視化することで、保育の振り返りができ次の保育の活動のヒントになり質の向上につながった。

(2) 課題

- ①小学校1年生の授業参観は、各小学校区での話し合いが不十分だった。
幼児教育施設から小学校へ“なに”を“どのように”つなぐか、双方で議論する必要がある。
- ②保幼小連携は各小学校区が中心になり実施できていない。接続期カリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム）の協働で作成する必要がある。
- ③保育ドキュメンテーションの作成する時間の確保が難しい。保育ドキュメンテーションの目的が十分に理解されてない幼児教育施設がある。

(3) 改善策

- ①小学校1年生の授業参観は、小学校長をはじめ1年生担任、校区の保育園、こども園、幼稚園の職員と行政も交えて「振り返り」を実施する。
事前で話し合いの内容や授業参観の視点を明確にしておく。
- ②令和5年度は各小学校区が中心になり保幼小連携を実施するようにする。
- ③保育ドキュメンテーション作成に目的と保幼小連携との関連についての理解を得ながら実施する。令和4年度の実践事例集を参考にし自園の保育ドキュメンテーション作成が楽しいと感じられように支援していく。

9 令和5年度 南城市が目指す目標

＝令和5年度の重点＝

各小学校区での研修を重視し、9小学校を中心に校区の幼稚園、保育所（園）、こども園、小学校の職員が対話を通して、幼児期の学びや育ちを小学校へつなぐようにする。各校区では関係者（小学校長・就学前施設長）の参加も必須とし、主体的に保幼小の職員が研修を深め学び合う場にする。更に中学校との連携の推進に努める。

令和4年度南城市内幼児教育施設・小規模保育施設巡回訪問実践報告

I 令和4年度 南城市内幼児教育施設巡回訪問要項

南城市教育指導課幼児教育係り

- 1 趣 旨 南城市内の幼児教育施設を訪問し、子どもの実態と保育状況の把握、意見交換を実施することにより、今後の研修計画に活かし南城市幼児教育の充実に資する。
- 2 訪問時期 (様式1)により訪問計画を事前に幼児教育施設へ依頼し調整する。
- 3 意見交換内容
(様式2)により「園の取り組み」提出をFAXで依頼する。
内容 ①教育・保育目標〈育てたい子ども像、今年度の重点目標〉
②遊びの展開、環境とのかかわり、保育士・保育教諭等とのかかわり、その他
③自園の良さ
- 4 訪問方法 幼児教育施設現状把握のため3歳児～5歳児在園の全施設を訪問する。
(幼稚園、認定こども園、保育園、認可外保育園)
- 5 準備物 特になし。事前に訪問資料「園の取組」の提出を求める。
- 6 参観対象 全クラス
- 7 訪問者 幼児教育アドバイザー : 大城 美恵子
幼児教育推進コーディネーター: 伊集 恒子
※教育指導課参事(與儀毅)、教育指導課課長(嶺井利宣)、係長(城間真由美)、子育て支援課係長(大城奈々子)、保育園係(親川裕子)は可能な日に参加する。
- 8 事 後 各園の子ども達の素敵な姿や感動した写真を提供し、共に保育のあり方を考える機会とする。(写真は園のみで活用し、他へ配信しない)
- 9 その他 1回目は全園訪問し2回目以降は希望園へ訪問する。

令和4年度「南城市幼児教育の質向上強化事業」活動記録簿

幼児教育アドバイザー	大城美恵子	実施場所	各 園
実施日時	2022年5月17日～9月28日		
事業の名称	保育の質向上に向けて「南城市幼児教育施設巡回訪問」31園 【公立幼稚園：4園 認可保育所：17園 認定こども園：6園 認可外保育所4園】		
参加者	○教育指導課幼児教育係（3名） ・幼児教育アドバイザー：大城美恵子 ・幼児教育推進コーディネーター：伊集恒子 ・幼児教育係長：城間真由美 ○子育て支援課（2名） ・子育て支援課係長：大城奈々子 ・保育支援員：親川裕子 ○園の参加者(懇談時) 園長、主任、他（年長組担任等）		
1 内容	<p>◎ 施設類型を問わず全園訪問する。（公私立幼稚園・こども園・保育所）</p> <p>○ 保育参観(60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視点：教育要領・保育指針を踏まえた保育実践が行われているか。 子どもの姿、環境の構成、保育者のかかわり等 <p>○ 懇談(45分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーにより本事業の趣旨について説明 (施設類型を問わず保育の質向上について、保幼この学びを小学校へつなぐ等) ・事前に「園の取組」を提出してもらい、保育目標や保育の現状を把握し懇談時に活用する。 ・保育参観者が感想を述べる。 (子どもの姿、保育者の関わり、環境の構成、園の雰囲気等) ・園長・主任から教育目標、自園のいい所、その他について述べる ・園への質問・要望等 (教育要領・保育指針に基づくこと、主体的な保育、遊び込みについて) 		
2 成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育施設との関係性の構築ができた。 ・教育要領、保育指針等の理解を促すことが出来た。 ・子どもの主体性を尊重する保育について知らせることができた。 		
3 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園教育・保育要領や保育所保育指針(H30年版)が保育者の手元にない園もあり理解の浸透が望まれる。 ・子どもの主体性を尊重する保育の展開が望まれる。 		
4 対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針や認定こども園教育・保育要領に基づいた保育の大切さを伝える。 (保育施設園長会、主任会、保育士等研修会、園内研修等において) ・子育て支援課：保育士等研修会の継続。アンケート実施により課題を把握し次年度に生かす 		
6 アンケートへの回答	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を支援し、保育実践指導を中心に訪問指導を実施していく。(希望園を募る) ・指導計画(期・週日案)作成の支援。 ・4歳児まで在園の園⇒保幼小連携事業へ参加 ・子育て支援課；OT巡回の継続(特別支援教育) ・ナース等の研修会は情報収集する。 		



II 令和4年度 南城市内小規模保育園巡回訪問要項

教育指導課幼児教育係&子育て支援課

- 1 趣 旨 南城市内の小規模保育施設を訪問し、子どもの実態と保育状況の把握、意見交換を実施することにより、今後の研修計画に活かし南城市幼児教育の充実に資する。
- 2 訪問日程 (様式1)により訪問計画を事前に小規模保育施設へ依頼し調整する。
- 3 参観時間 9:30~10:00 (30分) 0歳児~2歳児学級
懇談会 10:00~11:45 (45分)
- 4 懇談内容
(様式2)により「園の取り組み」提出をFAXで依頼する。
内容 ①教育・保育目標〈育てたい子ども像、今年度の重点目標〉
②子どもの様子、遊びの様子、保育士等とのかかわり
その他
③貴園の良さ
- 5 訪問者 幼児教育係 : 幼児教育推進コーディネーター伊集恒子
幼児教育アドバイザー 大城美恵子
幼児教育係長 城間真由美
子育て支援課: 保育支援員 親川裕子
係長 大城奈々子
※3~4名で訪問します。
- 6 準備物 事前に訪問資料「園の取組」の提出をお願いします。
園における準備物はありません。
- 7 事後 子ども達の素敵な姿や感動した写真を貴園へ提供し、共に保育のあり方を考える機会とする。

令和4年度「南城市幼児教育の質向上強化事業」活動記録簿

幼児教育アドバイザー	大城美恵子	実施場所	各園
実施日時	2022年11月8日～11月30日		
事業の名称 (小規模保育園5園)	保育の質向上に向けて「南城市幼児教育施設巡回訪問」小規模保育園 かりゆしキッズ保育園、さくら保育園、ゆうな保育園、つはこきらきら保育園 知念あさひ保育園		
参加者	○教育指導課幼児教育係(3名) ・幼児教育アドバイザー：大城美恵子 ・幼児教育推進コーディネーター：伊集恒子 ・幼児教育係長：城間真由美 ○子育て支援課(2名) ・子育て支援課係長：大城奈々子 ・保育支援員：親川裕子 ○園の参加者(懇談時) 園長、主任等		
1 内容 ◎ 小規模全園訪問する。(5園) ○ 保育参観(30分) コロナ禍により時間短縮 ・視点：保育所保育指針を踏まえた保育実践が行われているか。乳幼児期に関わるねらい及び内容の理解がなされているか。 子どもの姿、環境の構成、保育者のかかわり等 ○ 懇談(45分間) ・アドバイザーにより本事業の趣旨について説明 (施設類型を問わず幼児教育施設全園巡回訪問の意義等) ・事前に「園の取組」を提出してもらい、保育目標や保育の現状を把握し懇談時に活用する。 ・保育参観者が感想を述べる。 (子どもの姿、保育者の関わり、環境の構成、園の雰囲気等) ・園長・主任から教育目標、自園のいい所、その他について述べる ・園への質問・要望等 (保育所保育指針に基づくこと、安心・安全・愛着形成等)			
2 成果 ・小規模保育園との関係性の構築ができた。 ・保育所保育指針等の理解を促すことが出来た。小規模保育園においても、子どもの主体性を尊重する保育の展開の大切さについて知らせることができた。 ・乳幼児保育は愛着関係の形成が重要であることを伝えることができた。			
3 課題 ・保育所保育指針(H30年版)が保育者の手元にない園もあり理解の浸透が望まれる。 ・0歳児から好きな遊びを選んで遊ぶ主体的な保育の展開等。			
4 対応策 ・保育所保育指針に基づいた保育の大切さを伝え、資料の配布 (小規模保育園園長会研修会等にて講話) ・子育て支援課：保育士等研修会の実施			



1 実践事項

「新学習指導要領に即した外国語教育」への研修
～「言語活動をとおして学ぶ」授業改善～

2 実践内容

(1) 目的

「南城市小中学校外国語担当者研修会」「中学校研修の日」に自主研修を行うとともに文部科学省外国語調査官や本市外国語教育アドバイザー、講師を招聘し、講話や演習を通して、学習指導要領で求められている言語活動や評価等について学び、小中連携で外国語の授業づくりの充実に資する。

(2) 計画

- ①小中外国語担当者研修会
- ②校区内授業参観（小中連携）
- ③中学校研修の日
- ④調査官招聘授業研修会
- ⑤スパトレ株式会社によるオンライン英会話
- ⑥事前・事後アンケート実施
- ⑦CAN-DO リスト形式での到達度目標作成

3 実践・説明資料

(1) 小中外国語担当者研修会 大城賢氏に本市外国語教育アドバイザーを依頼しご指導を賜った。

第1回	5月27日(金)	令和4年度の南城市外国語教育について
第2回	9月20日(火)	大城賢氏(琉球大学名誉教授)による講話 学習指導要領が求める言語活動 ～迫られる指導観と評価観の見直し～
臨時	1月23日(月)	小中連携 中学区内小学校との協働授業計画
第3回	3月3日(金)	校区内授業の振り返りと次年度に向けて 大城賢氏による助言とワークショップ

第2回 大城賢氏による講話振り返りより

①講話から学んだこと(感想等)

- 言語活動全てを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価しなければいけない。
- 学習指導要領を改めて見直す機会となりました。やはり小中学校の指導要領を知ることは大切だと思いました。



○学習指導要領で変わったところを具体的に分かりやすく知ることができました。言葉の習得には表現を使って学んだり、学んで使ったりすることが大事だと聞き、これまでの外国語教育では覚えるだけで身になっていなかったと感じました。また、評価の話では実際、主体、知識技能、思考判断 表現の区別、A 評価、B 評価の境目に迷ったりするけれど、各学校で決定権があり、教師が基準を 持つ必要があると勉強になりました。

②今回の研修を受けて、自校においてどのような実践をしてみたいですか？

- 「言語活動を通して」学習させるのは分かっているけど、繰り返し練習させたり、自由な表現を言わせるような工夫ができていなかったの、目的場面状況を明確化し、子どもたちと共に目標に向かって取り組む、そして困ったらみんなて解決する、使いながら学び、学びながら使うことを意識して取り組みたいです。
- 評価の基準をしっかりと共有して取り組んでいきたいと思いました。また、言語活動を授業の中心にした単元を組み立てていきたいと思います。
- どの場面で何を評価するのかという共通理解が十分ではないと感じました。パフォーマンステストも含めて評価の場面を再度確認したいです。

(2) 校区内授業参観

☆は調査官招聘授業を行った年度

実施校 (調査官招聘授業◎)	実施日 (時間)	実施校 (調査官招聘授業◎)	実施日 (時間)
1 玉城中学校 1年生	9月26日(月)午後 13:45 ~ 14:35	船越小学校 6年生 玉城小学校 百名小学校	6月30日(木) 14:00 ~ 14:40
2 知念中学校 ☆R4	◎ 9月5日(月) 14:00 ~ ※中1の参観 10月17日(月) 文科省調査官招聘授業(3年)	知念小学校 6年生	11月14日(月) 13:35 ~ 14:20
3 久高中学校 2年生	12月1日(木) 4校時	久高小学校 3,4年複式クラス 内容は4年	12月1日(木) : : : 2校時
4 佐敷中学校 1-1	6月29日(水) 15:00 ~ 15:50	佐敷小学校 3-2、5-2 馬天小学校 6-1	9月28日(水) 10:00 ~ 12:00 9月8日(木) 11:35 ~ 12:20
5 大里中学校 1-3	10月4日(火) 午後13:35-14:25	大里北小学校 ☆R2 調査官招聘授業 大里南小学校 ※6-1 ☆R3 調査官招聘授業	9月15日(木) 14:50 ~ 15:35

①玉城中学校区



②知念中校区



③久高小中学校



④佐敷中学校区



⑤大里中学校区



義務教育課の『「問い」が生まれる授業のポイント（外国語）』をもとに作成した「授業参観シート」を活用し、授業の視点を合わせて授業や参観を行った。「言語活動を通して学ぶ」授業について小中で確認し、意識して取り組むことができた。

(3) 中学校研修の日

第1回	6月9日(木)	令和4年度南城市外国語教育について CAN-DO リスト形式による到達度目標の作成
第2回	7月14日(木)	木村達哉氏（元灘中学校・高等学校教師）による講話
第3回	10月13日(木)	大城賢氏（琉球大学名誉教授）による講話

< 第2回 木村 達哉氏 講話：「英語指導法 基本の基本」感想 >



- 「忘れることを前提として指導する」「どうして勉強をするか生徒に考えさせる」何度も繰り返し練習する場面を設けます。
- 英語の指導法についてどれも参考になり今後の授業に早速取り入れたいと思います。特に a と the を教えるとき指をさして生徒を巻き込んで体験的に教えることで生徒も理解しやすいし楽しいので印象に残ると思いました。
- 練習や復習の仕方を示すのが大切と気づかされました。また教材のストックをたくさん持つておくという言葉も心に響きました。スキマ時間にコツコツとストックしていこうと思います。
- 教師自身も自分を高める時間を持つという言葉にハッとしました。実行しようと思います。

< 第3回 大城 賢氏 講話「学習指導要領が求める言語活動」感想 >



○言語活動を通して、いろいろな単語や文法等を習得できることを改めて感じた講話でした。「使いながら学び、学びながら使う」を繰り返し、「使う」を意識し授業を試行錯誤しながら行っていききたいと思います。

○ Small Talk や Reading から Writing への自分の考えや思いを伝え合う練習を繰り返しながら、生涯英語を使い続け学び続ける生徒を育むぞと決意しました。

○子どもたちの気持ち、考えを重要視することが大切だと痛感しました。何より自分の気持ちを伝えているときの生徒達はすごく楽しそうなのです。「やりとり」から「書いてみる」という言語活動を通して、まずは使ってみて後から「正しく表現するためには」と学ぶことを実践してみても、私自身可能性を感じています。

(4) 調査官招聘授業研修会

< 研究授業 >

日 時：令和4年10月17日（月）14時00分～

場 所：南城市立知念中学校

学 級：3年2組

授業者：T1 大城 いずみ 教諭 T2 平良 聖子 教諭

1. 単元名 Program 5 The Story of Chocolate 『SUNSHINE ENGLISH COURSE p.63~p.74』

2. 単元の目標

社会的な話題についてサム先生と話をするために、英文を読んで把握した内容に基づき、考えたことや感じたことを伝え合うことができる。

3. 本時の学習【4/11 時間】

(1) 目標

現代のようなチョコレートがどうやって生まれたかのスピーチ原稿を読んで、自分の考えや感じたことを伝え合うことができる。

(2) 本時の授業の工夫

① Small Talk では生徒が表現を使う目的・場面・状況を設定し、やり取りできるようにした。

②言語活動では、型 (OREO) を示して考えや感じたことに理由と例を交えて話すようにした。



Small Talk



気持ちを表す表現法を出し合う



英語で伝える

大城教諭は「言語活動を通して学ぶ」授業を調査官招聘授業後も継続したので、本市外国語授業アンケートで「英語好き」と答えた生徒が6月42.5%から12月には56%に上昇

< 授業研究会 >

講 師 文部科学省 初等中等教育局 外国語教育推進室 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部

教育課程調査官 入之内 昌徳 氏 (英語)

演 題 学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校外国語科の指導の改善・充実

～コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指して～



<振り返りより>

①公開授業を参観して

- 型を示すだけで（OREO）自信を持ってペアとやりとりができており、また書くことに繋がっていた。イラストの並べ替えも、キーワードを書かせることで、概要がつかめる、考えがまとまることに繋がっていた。
- まず中3生のレベルに驚きました。そして中学校でも言語活動を中心とした授業に変換していくんだと思いました。小学校と違って中学校は正確に話さないといけないところがあるが、話したくなるような工夫はとても大事だと感じました。
- 生徒が自由に考えるためには時間が必要だということ。そしてそこへ導くための指導法の在り方の工夫等。

②研修会を通して

- 原点に戻り、中学校の役割を考え直した時に小学校と指導が被ってしまっている部分も実際にあったりして、凄く二重に指導してしまっていたと私自身も感じたので、子供達がどこまで小学校で学んできたのかをしっかりと把握して子供達の考えを自由に表現させるようにしたい。
- 教科横断的な視点からの教材研究や、郷土のことをもっと学ぶというような、英語を通して自分の学びを深めていけるような授業の展開が必要という話が特に印象に残った。教師の役割について学んだので、自身の授業改善につなげ、よりよい授業を行えるよう励んでいきたい。
- なるべく多くの英語を聞かせられるよう担任も積極的に英語を使えるようにしていきたい。また ALT や中学の先生とも協力して授業を進めていきたい。

(5) スパトレ株式会社によるオンライン英会話

1人1台端末を活用し、生徒と外国人講師が1対1で25分間オンライン英会話を行う。経済産業省の補助事業を受けて、スパトレ株式会社のプログラムを今年度7月後半から3月まで受講できるようになった。授業で習ったことを発揮する機会に児童生徒は集中して、時には身振り手振りを加えて外国人講師と会話をしている。

※今年度実施校

7月申請校：市内中学校、大里北小学校、大里南小学校、久高小学校

10月申請校：船越小学校、玉城小学校、百名小学校



大里北小学校



船越小学校



玉城小学校



大里南小学校



佐敷中学校



知念中学校



大里中学校↑ 玉城中学校↓

～生徒の声～

- ・授業で勉強した英語が使えた ・英語を話すのが楽しいと思った
- ・初めて英語で、海外の人と一对一のやりとりが出来た
- ・うまくお話できなかったけど、簡単にしてくれたのでわかった
- ・次は相づちを打ったりしながらもっと話せるようになりたい
- ・海外の方と会話するのが夢だったから、聞き取るのは難しかったけど嬉しかった
- ・I could speak the English that I have studied in class for 3 years.
- ・(To trainer) Thank you for teaching me politely even though I couldn't speak English. It was a lot of fun.

※中学生は英語で感想を書いている生徒もかなりいました。



(6) 事前・事後アンケートより（英語が好きと答えた生徒）

小学生	6月	80.0%	スパトレ実施校は上昇	中学生	6月	51.8%	内容は難しくなったがほぼ維持
	12月	81.0%			12月	51.1%	

4 成果

- 外国語アドバイザーや講師を招聘し小中外国語担当者研修会・中学校研修の日で講話をしてもらったので、新学習指導要領の改定のポイントやその趣旨に沿った授業を意識できた。
- 調査官招聘授業に向けて、授業者の大城教諭は6月から生徒が自分の思いや考えを発話する機会を設け、発話したことを書くを繰り返したので生徒は発話も文もしっかりした。また、その授業を見て、研修会で講話を聴き市内教師が「言語活動を通して学ぶ」を意識した。
- 校区内小中連携授業を通して、小学校は中学校での学びを意識し、中学校は小学校で学んだことを把握でき、系統立てたなめらかな接続を考えるようになった。
- オンライン英会話を通して、習ったことが通じる喜びや表現できなかったことを次は伝えられるよう授業を頑張りたいと、児童生徒の外国語学習への意欲につながった。
- 児童生徒、全教師にアンケートに授業についてのアンケートを行ったので、参観に行くと授業の流れに反映されている学校が増えた。

5 課題

- 小中外国語担当者連絡会や調査官招聘授業は、担当者が参加するため全員に浸透する手立てとしてオンデマンドで配信したが、視聴者は多くはなかった。
- 校区内連携授業参観は時間を見出して行ったので、授業後の振り返りの時間が持てず振り返りシートにて行った。次へ生かすため第3回の小中外国語担当者連絡会で共有する。
- 授業内の言語活動やオンライン英会話で伝えたかったが伝えることができなかった児童生徒への支援法を考える。
- 生徒が「自分の考えや気持ちを表現する活動があった」と答える割合の多い学校は「英語が好き」と答える生徒が多かった。継続した取り組みを行いたい。

【作成要領】

学校名 玉城こども園	連絡先 TEL: 098-948-7511 Eメール: tamagusuku-cc@iwakikai.net
----------------------	--

1 実践事項

研究主題 「遊びこむ幼児を育む」
～地域文化と触れ合うことを通して～

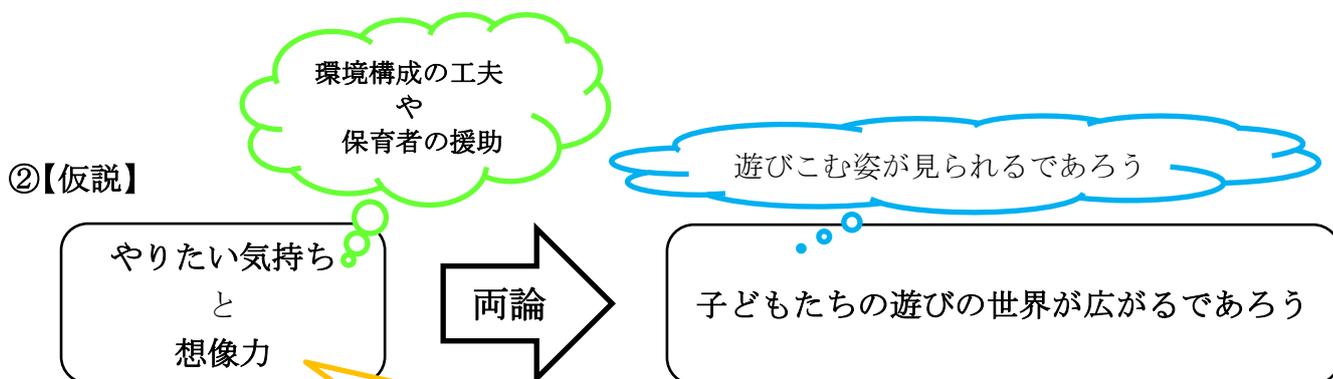
タイトル: 「木の枝で筆ができた！」

2 実践内容

- ・アダンの木の枝で木の筆を作ろう。

3 説明資料

①【視点】 園児が「もっとやりたい、またやりたい」と思えるための保育者の援助のあり方



想像力（イマジネーション）とは目には見えないものを思い浮かべる能力のことである。人は目で見、耳で聞き、手で触れる現実のほかに、想像力で作り出した世界を自分の現実にすることができる。

③【目指す姿】

好きな遊びに「こうしたい」という思いをもって関わり、面白さを感じながら夢中になって遊ぶ姿

【やりたい気持ち】

繰り返し遊ぶ中で自分なりの目的に向かって考えた、工夫したりして探求していく姿

【想像力】

遊びのなかで感じたこと、考えたこと、発見したことなどを周りに伝え楽しさを共有しながら自分たちで進めようとする姿

【やりたい気持ち】【想像力】

④遊びこむ姿と環境構成・保育者の援助

【3・4歳児の遊びこむ姿】

① 興味・好奇心

- ・いろいろなことに興味をもっている姿
- ・傍観しながら遊びに参加する姿
- ・なぜ？何？と疑問をもつ姿

① してみようとする

- ・自分なりに遊んでみる姿
- ・自分がしたいことを選んでする姿
- ・いろいろなことをしてみようとする姿

② 繰り返し遊ぶ

- ・試したり工夫したりして遊びを展開していく姿
- ・繰り返し遊ぶなかでいろいろなことに気づく姿

④ 主体的

- ・自分から進んで遊びに取り組む姿

【環境構成】

- 園児が興味を持っていることを取り入れた環境
- ・遊ぶ用具の準備（シャベル、スコップなど）
- ・桶に水を入れて準備する
- ・ままごとと用具を準備する

- 自由に遊びを楽しむことができる環境
- ・ままごと（カップ、葉っぱ等を準備する
- ・虫かご、図鑑、虫取り網を取りやすい場所に置く

- 遊びを引き続き楽しめる環境
- 試したり工夫したりできる用具や材料の準備をする
- ・展示する場所を決めて明日の遊びがつながるようにする
- ・室内、室外の観察できる場所を決めておく

- 興味をより深められる環境（絵本や図鑑）
- ・園児が主体的に遊べるように用具の置き場所を固定し遊びやすい環境をつくる
- ・図鑑をコピーして掲示したり、虫眼鏡を準備しておく
- ・コーナーをつくり興味ある虫を掲示する

【保育者の援助】

- 幼児の思いを受け止め見守る
- 遊びの振り返りをする時間をもつ
- ・朝の会で今日の遊びの導入をする
- ・帰りの会で今日の楽しかったこと、遊びで工夫したこと、お友達と力を合わせたこと等を発表する機会を設ける

- 教師も一緒に遊びを楽しむ
- 幼児の思いに寄り添い、共感したり、提案したりする
- ・教師も一緒に遊び、面白さが十分に感じられるようにする
- ・保育者も一緒に虫の名前を調べたり一緒に観察したりして子どもに共感する
- ・虫好きな子をリーダーとして、友だちとイメージを共有できるように声かけをする
- 繰り返しあそぶことができる時間や場の確保

- 園児の思いに共感する
- ・帰りの会で発表の場を設ける

【5歳児の遊びこむ姿】

① 興味・好奇心

- ・なぜ？何？と興味や関心をもつ姿
- ・好奇心をもって自分から関わる姿

② 目的をもつ

- ・自分なりに目的をもって遊ぶ姿
- ・友だちと同じ目的をもって遊ぶ姿

③ 試行錯誤

- ・いろいろな方法で、試したり工夫しながら遊ぶ姿
- ・いろいろな素材を使って、組み立てたり、挑戦してみようとする姿

④ 持続

- ・夢中になって遊ぶ姿
- ・一つの遊びが継続する姿

⑤ 人との関わり

- ・友だちと思いを伝え合う姿
- ・友だちと協力する姿

⑥ 主体的

- ・自分のしたいことに自信をもって取り組む姿
- ・自分の思いを伸び伸びと表現する姿

【環境構成】

○視覚的な刺激となる環境（絵本や写真など）

- ・絵本や図鑑ですぐに調べることができるように置き場所や掲示の仕方を工夫する

○目的を持てるような環境づくり

- ・行事に向けて目標達成ができるような掲示物の作成。例えば、縄跳びや竹馬等のチャレンジカードを用意する

○選択できる用具、材料の用意

- ・様々な素材の用意。コーナーや配置場所の工夫

○遊びが継続できるような環境の設置

- ・制作した物を壊さず、次の遊びにつながるように保管場所の確保

○友だちと協力しあえる材料の大きさや数の準備

- ・十分に遊べるように時間を確保する

○したいことが自由にできる環境

○興味を深められる環境（絵本・図鑑）

- ・園児が主体的に遊べるように用具の置き場所を固定し遊びやすい環境をつくる

【保育者の援助】

- ・保育者も一緒に調べたり、調べたことを掲示する

○クラスで遊びの話題の共有、話し合いをする

- ・できた時には、褒めてあげ保育者も一緒に喜んだり、友だちの前で披露する場をもつ

- ・色々と試したり、工夫している姿を認めつつ、困った時には一緒に考える

○一緒に考えたり、考えるためのヒントをタイミングよく出したりする

- ・発表の場を設け他の園児にも興味・関心を持たせるように声かけをする

○保育者も友だちの一員となって一緒に遊ぶ

- ・友だちと思いを伝えることができる場を多くもつようにする

○自由に思いや自分の考え・意見を出したり、表現したりできる空間、雰囲気をつくる

実践事例 (地域文化との触れ合いを通して : 5歳児)

<幼児の実態>

- ・廃材遊びや、物作りが得意な子ども達が多く、虫の家や、虫の公園、船、ゴミ箱、迷路等々、友達とアイデアを出し合い協力して作ることを楽しんでいる。木の枝を見つけ「遊んでいい？」と手にとり感触を味わっている

【1日目】 「すごい！先生これ何の木？使っていい？」

あだんの実を取る木の枝に興味を示し「切っていい？」と、ノコギリを借りに職員室へ、副園長先生からアドバイスをもらい、かなづちで叩くとどうなるのか？興味津々だった。



*かなづちを両手で持つ子もいれば「俺が叩くから、〇〇は木つかまえておけね！」と協同で工夫しながら徐々に毛になっていく変化に夢中になっている。こども達は木の枝を叩きながら気づき、発見を楽しんでいた

【2日目】

さらに毛を細かくできるかな？

遊びにどう広がるのかな？

I児「先生、固まってる毛ハサミで切っていい？」

保育者「切ってもいいけど、どうやって？」

H児「手でこんなやって(裂いて)やれば！」



この時ままごとのフォークで毛をといている別の子が、

R児「髪の毛をやるのでやったらいいじゃん！」と発言。

○早速ブラシを購入してきた

R児「髪の毛みたい！」(ブラシを使って製作を続ける)

「エイサーのチョンダラーの毛みたいだね！」



運動会に、その毛でチョンダラーやってくれるといいなー？

別の子が小さな木の枝を叩いていた

保育者「何するの？」

T児「ほうきにできるよ！先生見ててね！」

「いっぱいゴミとれるよ」



保育者「すごいね～小さなゴミまできれいにとれるね～」

【3日目】

T児「大きな紙に絵の具で絵描きたい！」

K児「この筆きれいに描けないけど、おもしろい形になる！」

H児「変な形になるからオバケとかハロウィンとか描けば！」



【4日目】

H児「先生、テレビで大きな筆で黒い絵の具で描いてる人がいたよ！」

保育者「あれは墨で描いているんだよ。」「やってみたい？」

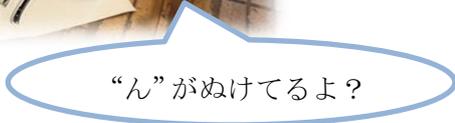
○早速、墨汁と習字紙を準備した。



【5日目】“何を描こうかな”“緊張するな”と、友達同士で挑戦！

Y児「立って描くのって難しいけど

大きく描けるのが楽しい！」



【6日目】クラスで墨を使って表現製作を行った。

「ほんとにカマキリが跳んでくるみたいだな！」「木がおじいちゃんみたい！」「女の子が笑ってる！」「怖く見える」など、墨のかすれ感や強弱、絵が浮き出してくる感を体験できた。

筆の扱いで習字紙が破れたり、何度か繰り返すうちコツをつかんでいった。



4 成果と課題

- 興味を持った数人の子ども達から始まり、鉄鎚で木を叩く子、木を支える子、側でアドバイスをする子、細かい作業を好む子など、徐々に取り組みに参加する子ども達が増えていった。(協同性)(自然との関わり・生命尊重)
- 「毛を細くするには?」「柔らかくするには?」と試行錯誤しながら作業していた。(自立心)(思考力の芽生え)
- 筆が出来上がると、「絵具で絵を描きたい!」と大きな紙に描き始めた。
遊びこんでいく中で一人の子が「テレビで女の人が大きな筆をもって黒の絵の具で字を書いていた」「やってみたい!」と提案の声があり、墨と習字紙、大きな紙を提供した。
(数量・図形、文字等への関心・感覚)
- 墨のかすれ感や絵の表情、個性あふれる作品に、子ども同士で感じたことを伝え合いながら表現遊びとなった。(言葉による伝え合い)
- 筆づくりが完成するまでに色々な工夫と想像力を働かせ、子どもが主体的になって進めていくことが出来た。クラスのまとまりが出てきた。(豊かな感性と表現)
- 活動に消極的だった子も「絵や文字を描きたい」と、積極的に活動し筆や炭の感触を味わい、作品展に広がっていった。(健康な心と体)

- あだんの筆の特徴を生かすことができ、子どもが遊び込める素材でした。

- 本園で捉えた5歳児の遊びこむ姿の6つの視点
①興味・好奇心 ②目的をもつ ③試行錯誤 ④持続 ⑤人との関わり ⑥主体性
全てが見られた実践だった。
特に色々な方法で試したり、工夫したりする姿(③試行錯誤)・夢中になって遊ぶ姿、一つの遊びが継続する姿(④持続)が顕著に見られた。

【作成要領】

学校名 南城市立知念こども園	連絡先 TEL : 098-948-1751 Eメール : chinenkodomom@chinenfukushikai.net
-------------------	---

1 実践事項 (①または②)

自分の意見や考えを自分の言葉で表現できる子

タイトル：「グループ活動を通して」 (5歳児)

2 実践内容

子どもたちに、自分の意見や考えを自分の言葉で表現できる子になって欲しいという思いから、日頃の保育の中で、みんなの前で話をしたり、グループ活動などを通して自分の意見を言える場をもうけたりしてきた。

グループの話し合いの時には、リーダー格になる子もいれば、自分の意見を言えずに、グループみんなで決めることなども、自ら発言する子だけの意見がとおりと、納得がいかないまま決められるが何も言えず嫌な思いをする子もいる。このような子どもの姿を通して自分の意見を言える。また一人ひとりが意見を出し合うことで、「こんな意見もあるんだな」など、自分の考えだけではなく、他の子の意見も受け入れることができる。そしていろんな意見がある中で、みんなで決めていく、みんなが納得がいくまで話し合うことを大切に保育をしている。



お泊り保育に向けて

11月にお泊り保育があり、美ら海水族館へ行き、園でお泊り体験をするということは決まっていたが、グループ分けも子どもたちが決め、リーダーやグループ名も決め、更には美ら海水族

ある程度の一日の流れは保育者が考え、美ら海水族館で何を見るか、どこに行くか、また、夜はどのようなことをして過ごしたいかということクラスで話しあいをした。

美ら海水族館では、クラス全員でイルカショーを見て、お弁当を食べた後3つのグループに分かれ完全にグループ行動になる。各グループでどこを見てまわるか、おやつはいつ食べるかなど、子どもたちが地図を見ながら主導で進めていく。(保育教諭は、安全や提案、時間の確認などをしていく)



クラス全体で話しあった結果、夜はグループごとで楽しいことをしたいということになった。

3つのグループに分かれ、何をするかを話し合う。

『ハリーポッターの劇』『クイズを出す』『ダンス』をすることになった。

その話し合いの中で、子どもたち同士いろいろなやり取りがあった。

ハリーポッターの劇のグループは、セリフをなかなか言えない子に対してイライラし「早く言って」と急かされ、それで泣く子がいたりしてトラブルが絶えなかった。

クイズのグループは、それぞれクイズを考えて出し合うがクイズがかぶってしまいケンカになったり、なかなか決められない子に対して「早くきめて」と文句を言う子もいれば、「一緒に考えるよ」と言って、助けてあげている子もいた。

ダンスのグループは、選曲をし歌う場面と踊る場面を決めたかと思うと「ダンスなのになんで歌を歌うのか」という子もいて、それでも言い合いが長引いた。

話しがまとまるのか気になり、保育者が仲介に入ろうかとも考えたがもう少し自分たちで話し合いをさせてみることにした。

言い合いになる場面も多かったが、それでもお互いの意見を聞き自分の意思を言ったり相手の意見を受け入れたしながら、グループのみんなが納得いく話し合いができた。



園に戻り、晩御飯を食べて、お風呂に入ったあと、みんなの楽しみにしていた各グループの出し物の時間になった。



自分のセリフの番になってもなかなか言えずに、とても時間がかかってしまった子がいた。

それでも、その子のことを急かすことなく、言えるまで励ましたり、応援する姿が見られた。

ハプニングもあったが、どのグループも、それぞれ満足のいく出し物ができたと思う。

成果

日々の保育の中で、人前で話すこと、自分の気持ちや考えを言葉にして言えること、友達同士で話しあって、どうやったらうまくいくのかなど、自分たちで考えていく、意見を出し合うことを大切にしてきた。

ケンカになっても、すぐに保育者が仲介しないようにせず、子どもたち同士で話し合うようにしてきた。その中で、「私はこんなことを言われて嫌な気持ちしたんだよ」など、自分の気持ちを言葉にして伝えられる子が増えてきた。

グループでの話し合いでも、物事がうまくいかなかった時など「なんでうまくいかなかったのか」話し合う場を設けてきた。その中で、「あの時、〇〇だったから失敗したんじゃない?」「次は〇〇したらうまくいくんじゃない?」など、子どもたち同士で、何が原因でこうなってしまったのか、どうしたらうまくいくのかなど、自分なりの思いや意見などを出し合って解決していこうとする姿がみられるようになってきた。

毎回、話し合いがスムーズに行くわけではなく、保育者が仲介に入る事もあるが、そういう手助けや配慮をしていきながら、自分の意見や考えを自分の言葉で表現できる力を身につけていけるように意識して保育をしていきたいと思う。

学校名 南城市立佐敷幼稚園	連絡先 TEL : 098 - 947-1875 Eメール : tohma00271@city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

「幼児が遊びこむための環境構成や援助の工夫」

～心を動かされる体験を通して～

1 実践内容

- 幼児がより遊びこめるよう環境構成の見直しを図る。
- 教師や友達、身近な自然との関わりの中で、心を動かされる体験ができるよう援助していく。
- 保育ドキュメンテーションを活用し、課題解決や保育の質の向上を図る。

2 説明資料



絵本コーナーを移動。以前より静かで落ち着ける空間になりました。



スペースが広がった遊戯室に巧技台を設置。異年齢児の関わりが見られます。



登園場所の変更。外遊びへの動線が確保しやすくなりました。



3歳児クラス。
自然豊かな園庭で、虫捕りに夢中の子ども達。



「バッタを飼いたい！」
子ども達と一緒に調べた事を担任がわかりやすく表示。



「バッタはね、草を食べるんだよ。」園庭の草をちぎって虫かごに入れてます。



4歳児クラス。
園歌に出てくるトントンミーを探しに佐敷干潟へ。



「わあ～トントンミーって目が上についてるね。」
「かわいい～！！」



トントンミーごっこへ発展。「トントンミーってぴよんぴよん飛ぶよ。」



年長組。「カエル捕まえた。何ガエルかな?」「調べよう!育て方もあるかな?」



調べたことを相談しながらカエルの家づくり。「土もいれないとね。」



教師が貼り付けたカエルの写真に、子どもたちが文字を書き入れ絵本作り。



年長組。いろいろな材料を使って、自由に製作を楽しんでいます。



「見て見て～!年中さんみたいな紙コップ人形が作れたよ。」



次々できあがった作品は、飾る場所もみんなで考えました。



「人形劇のはじまりはじまり～!」お客さんも興味津々です。



「みんなに見てもらいたいな～。」「映画館作ったらいいんじゃない!!」



「人形を使ってお話作ろうよ。」「紙に書いておいたら忘れないね。」

3 成果・課題・改善策

○成果

- ・環境の見直しを行ったことで、より遊びが発展するようになった。さらに、保護者とのコミュニケーションが取りやすくなり、信頼関係が築きやすくなった。
- ・飼育、観察を通して、その成長や変態の瞬間を目の当たりにするなど、心動かされる体験をしたことで生命の不思議さや神秘を味わうことができた。また、生命の大切さについて考えるきっかけとなった。

○課題と改善策

- ・保育カンファレンスや期の振り返りをとおして職員間の共通理解を深め、幼児の遊びや活動の様子、つぶやきを見逃さないよう協力し合う。
- ・今後も、幼児の実態を考慮しながら環境の再構築に努めていく。

学校名

南城市立大里北幼稚園

連絡先 TEL : 098-945-2583

Eメール : mikayo00607@city.nanjo.okinawa.jp

1 実践事項

「子どもと共に作る保育ドキュメンテーション」

2 実践内容

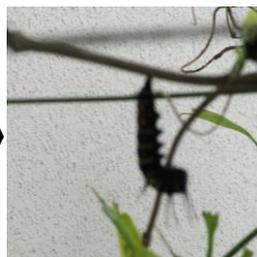
- ① 子どもの興味や関心に基づいた豊かな体験を通して、遊び込むための環境構成や援助の仕方を工夫する。
- ② 子どもの思いに共感しながら、言葉を拾い、言語化・視覚化していく。
- ③ 子どもと共にワクワクするようなドキュメンテーションを作成する。
- ④ 子どもと遊びの振り返りを行う際に、保育ドキュメンテーションを活用し、次につなげる。

3 説明資料

- ① 身近な自然や生き物との触れ合いを通して
 (自然との関わり・生命尊重・豊かな感性と表現・言葉の伝え合い・思考力の芽生え)
 - ・季節の草花や野菜・幼虫の食草等を計画的に栽培し、遊びに活用する。
 - ・自分で捕まえた虫や幼虫などを飼育し、観察や触れ合いを楽しむ。
 - ・見る、触れる、嗅ぐ、聴く、味わう (五感を使い、感動体験を重ねていく)



いつでも観察できるようにホウライカガミを室内に置く



卵から幼虫へ
毎朝、幼虫の成長を見守る



幼虫から蛹へ
手のひらでそーっと触れている



金の蛹から蝶へ
神秘的な瞬間をじーっと見守る

『おおごまだらの長さくらべ』



幼虫の大きさを木の枝で測り、折った木の枝を紙に貼り、比べていた。蛹の動く様子・脱皮した時の皮を大事に張り付けていた。



飼育した卵や幼虫がどんな蝶になるのか予想する楽しさや羽化した喜びを友達と共有しながら、描き進めていた。

② 親子シーサー作りを通して

(豊かな感性と表現・協同性・言葉による伝え合い・思考力の芽生え・自立心)

- ・親子陶芸教室(シーサー作り)を通して、地域の文化に触れ、興味をもつ。
- ・遊びの中で試行錯誤しながら、色々なシーサーを作って楽しむ。

『シーサーマップを作ろう』



園周辺を散歩しながら、シーサーを探しに出かけた。色々なシーサーを発見し、友達と会話を楽しむ。

散歩時の写真と紙を用意すると、「シーサーマップを作りたい」と友達同士、知っていることを伝え合い、書いていた。

「シーサー探し」という共通の目的を持つことで、普段気づかないことを発見し、驚きや好奇心・興味を持ち、友達と伝えあう楽しさを味わっていた。



親子シーサー作りが、7月から延期となり、10月開催までの間、子ども達の興味・関心が広がり、色々な素材や廃材を使って遊ぶ姿が見られた。泥・粘土・廃品を使って、色々なシーサー作りを楽しむ。また、さくら組の守り神シーサーも完成し、発表会の人形劇にも登場した。

③ 秋の遠足を通して

(豊かな感性と表現・協同性・言葉による伝え合い・思考力の芽生え)

- ・秋の遠足を通して、感動体験を友達と共有し、思ったこと・感じたことお互いに伝えあう。

『いろんな動物に会えてうれしかったね』



遠足の振り返りをしながら、色々な声が出てきたので、「一番会えて嬉しかった動物は何？」と問いかけ、それぞれが動物を描き、大きな画用紙に貼っていった。自分が見たときの思いや発見したこと、気づいたことを伝えあい、書き足していった。みんなの前で発表したり、掲示することで、友達と共有、共感、伝えあう姿が見られた。

4 成果

- ・遊びの中で、発見したこと、考えたこと、感じたことなどを教師や友達と伝えあうことで、相手のよさに気付いたり、協同して活動したりする楽しさを味わうことができた。

5 課題

- ・子ども一人一人の興味・関心に寄り添い、個に応じた援助や支援の手立ての方法を探っていく。
- ・自分の思いや考えを伝えることが苦手な子に対して、ドキュメンテーションを活用しながら自由に表現できるようにしていく。

学校名 南城市立大里南幼稚園	連絡先 TEL : 098-945-2827 Eメール : nakamoto00378@city.nanjo.okinawa.jp
-------------------	--

1 実践事項 (2)

いきいき活動 わくわく発見 にこにこ遊ぶ みなみっこ☆

2 実践内容

(1) 幼児の興味に合わせた遊びの展開

- ・幼児のつぶやきから一人一人の興味関心を丁寧にくみ取り、遊びの充実を図る。

(2) 地域（南城市）の文化や伝統に触れる

- ・地域人材を活用し、伝統行事である奥武島のハーリーや大城のエイサーに触れる機会とする。

(3) 保育ドキュメンテーションの共同作成

- ・職員全体でカンファレンスを行い、保育ドキュメンテーションを作成し、遊びの中での育ちや学びを共有する。共通の幼児理解を基に、一人一人に合わせた援助や環境の構成を行う。

3 説明資料

(1) 幼児の興味に合わせた遊びの展開



園庭に掘った穴で泥の感触を楽しむ



泥団子作り



どれが浮かぶか実験中



砂場で水路&スライダー建設



こま回しのコースを建設中



こま回し対決



ガラスのコップで音階作り



ピアノの中身を調査中



空き箱で楽器作り

(2) 地域（南城市）の文化や伝統に触れる



奥武島のハーリーに乗船体験



大城エイサーを観る



大城のチョンダラーになりきる

(3) 保育ドキュメンテーションの共同作成



教材研究 泥団子作り研究中



幼児と一緒に振り返り



保育ドキュメンテーションの共同作成

4 成果

- ・ 幼児が興味をもって始めた遊びを、十分にできる時間や場所などを保障したことで、探求心がより深まり、夢中になって遊ぶことにつながった。
- ・ 全職員でドキュメンテーションを活用し、保育カンファレンスを行うことで、遊びの読み取りが深まり、遊びの中で育てたい力を共通理解でき、幼児一人一人に合わせた援助を行うことができた。
- ・ 幼児が自ら考える過程を大切に、教師も一緒に試したり考えたりすることを楽しむことでワクワク感が広がり、充実感を味わった。

5 課題

- ・ 幼児の活動の場面に応じて教師がすぐに援助をするのではなく、友達と関わりながら遊びを工夫していけるように援助のタイミングや援助の仕方を工夫していきたい。

学校名

南城市立久高幼稚園

TEL : 098-948-3950

1 実践事例

①「保・幼・こ・小・中・高・地域・関係団体との連携（幼小・小中・中高・地域）」

「身近な環境と関わり合いながら幼児一人一人の確かな学力を向上させ、生きる力をはぐくむ」

2 実践内容

＜本園の良さ＞ ○幼小中併設校 ○地域一帯となった行事の取組 ○単学級での3年保育

（1）確かな学力の定着

①「学びの芽・学びの素地」の育成

②集団生活に必要な態度の育成



（2）豊かな人間性の育成

①人間関係づくりをはぐくむ取組

②社会性をはぐくむ取組の充実



（3）健康・体力の育成

①生活と関連を図った健康作りの充実

②運動遊びをととした体力づくり



(4) 基本的な生活習慣の育成

生活リズムの確立、規範意識、マナーの育成



規則正しい生活リズムの奨励
「食べて・動いて・よく寝よう」



決まりや約束を守る
「友達とルールを守って遊ぶ」



食事のマナーを身に付ける
「食べる姿勢や箸の持ち方」

校種間及び学校・家庭・地域との連携



地域の行事に参加



保育園児との交流



お招き会

幼小中連携（地域一体の行事）：追い込み漁・運動会・発表会・・・



追い込み漁



中学校の先生による絵本読み聞かせ



久高大運動会



こいのぼり集会



ハロウィン会



演劇鑑賞

3 成果と課題（成果○ 課題●）

- 地域や保幼小中学校との行事や関わりを通して、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いを受け取れたりしながら、遊ぶ姿が見られるようになった。
- 異年齢児保育の中で、発達段階に応じた生活経験ができる環境構成や援助の工夫を図っていく必要がある。

学校名 南城市立玉城小学校	連絡先 TEL : 098-948-7251 Eメール : tamasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
------------------	--

1 実践事項

○特色ある取り組み（カリキュラムマネジメント・ICTを活用した事例等）

2 実践内容（具体的な取組）

（1）学習規律「玉小ルール」の徹底

- ① 全学級に掲示して年度初めの学推朝会や教科指導の中で確認する。
- ② 学校生活で繰り返し指導し学習規律を徹底させ、学習を支える基盤作りをする。
- ③ ノーチャイムを取り入れ、時間を意識した行動と時間管理ができるようにする。
- ④ 「玉小ルールアンケート」を年2回児童に実施し自己評価をさせ指導に生かす。

【玉小ルールアンケート結果】

質問項目	あいさつ	筆箱の中	机の中の整頓	机の上の整頓	時間黙想	学習姿勢	イスを机の下へ	挙手	聞き方	発表の仕方
令和4年11月	88.9%	77.7%	85.2%	92.5%	85.2%	81.5%	92.6%	88.8%	96.2%	85.2%
令和3年11月	88%	84.6%	80.2%	88%	87%	73%	92%	82.5%	85%	76.5%

【成果】

- ① ノーチャイムにより、時計を確認しながら始まりと終わりを意識して行動できるようになった。
- ② 机上の整頓が徹底され学習に集中して取り組めるようになった。
- ③ アンケート結果を担任と振り返ることで、自分の行動をよくしたいという意識が高まった。

【課題・対応策】

- ① アンケートを分析して達成率の低い項目は粘り強く定着を図り、継続指導を徹底していく。
- ② 自己肯定感を高めるため、全職員で「誉め言葉のシャワー」を浴びせる実践を広げていく。

(2) 調査問題の結果分析と学習指導への活用

- 全国学力学習調査の結果を分析して成果と課題を把握し全職員で共有した。落ち込みのあった単元や指導事項については、当該学年で重点的に指導する。
- ① 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」自校分析と対策（国語）
 - ・ 結果、本校と沖縄県との差はなく、全国との差は－2，6ポイントであった。
- ② 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」自校分析と対策（算数）
 - ・ 結果、本校と沖縄県との差は、－1ポイント、全国との差は－5，2ポイントであった。
- ③ 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」自校分析と対策（理科）
 - ・ 結果、本校は沖縄県より2ポイント高く、全国との差は－0，3ポイントであった。

【課題・対応策】

- ① 児童の感想から「時間が足りなかった」という声が多く聞かれた。そのため文章や問題を速く読み取ることができるよう意識して指導していく。

- ④ 「令和4年度全国学力学習状況調査結果」（生徒質問紙より本市の具体的達成目標に関する項目）
自分には、良いところがあると思う

当てはまる 25,8 %	どちらかといえば当てはまる 45.2 %	どちらかといえば当てはまらない 21.0%	当てはまらない 8.1 %
-----------------	-------------------------	--------------------------	------------------

地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある

当てはまる 14,5 %	どちらかといえば当てはまる 32.3%	どちらかといえば当てはまらない 24.2 %	当てはまらない 29.0 %
-----------------	------------------------	---------------------------	-------------------

学校に行くのは楽しいと思う

当てはまる 38.7 %	どちらかといえば当てはまる 33.9 %	どちらかといえば当てはまらない 19.4 %	当てはまらない 8.1%
-----------------	-------------------------	---------------------------	-----------------

学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたりすることができている

当てはまる 14,5 %	どちらかといえば当てはまる 56.5 %	どちらかといえば当てはまらない 14.5%	当てはまらない 12.9 %
-----------------	-------------------------	--------------------------	-------------------

【対応策】

- ① 「なかよしアンケート」を毎月実施し、児童の生活の様子等の情報交換を行っている。また、QUアンケートを学級経営に生かし、満足度を客観的に分析して児童理解の充実を図っている。さらに、支援を要する児童についても、職員会議後の生徒指導部会で全職員で共通確認を行っている。
- ② 校内研修において「自己肯定感を高める指導の工夫」に取り組んでいる。

(3) MIM やコグトレによる基礎学力の定着

- ① 諸調査問題において読むことに課題があったことから、低学年で読むことが定着できるように国語の授業や帰りの会等でフラッシュカード等を活用している。
- ② 授業開始5分間に集中してコグトレをすることで落ち着いて授業に臨むことができている。



【フラッシュカードによる個別学習】

【成果】

- ① MIM のボディーランゲージを取り入れた指導により促音や拗音の理解が深まっている。
- ② コグトレをすることにより、学習にスムーズに入り集中することができている。
- ③ コグトレにより算数の計算が速くなった。



【集中してコグトレに取り組む】

(4) クロムブックを活用した学習指導

【活用事例】

算 数・・・無料のクラウド教材を活用して、自分のペースで既習問題を解き進めさせている。

社 会・・・単元のまとめに新聞づくりを行わせ、表現力や判断力を伸ばしている。

図 工・・・クラスルームを活用して、作品鑑賞の感想や気付き等を打ち込み担任に提出させた。

外国語・・・ネット上のクイズでゲームをしながら学習し、単語や文法・文章表現を楽しく確認、定着できるようにしている。3年生が百名小学校とオンラインで英会話を楽しんだ。

その他・・・グーグルフォームを活用して、各種児童アンケートの回答を入力させた。

週に1回、モジュール学習（15分）をパソコンタイムとして、パソコンに慣れ親しませる機会を増やしている。

不登校気味の児童にクロムブックを持ち帰らせ、オンライン授業に参加させたり学習のサポートをしたり、教師とのコミュニケーションをとるツールとして活用している。

【成果】

- ① 「個別最適な学び」として楽しみながら集中して学習や教材作成に取り組めた。
- ② キーボードの打ち込み速度やソフトの操作が格段に向上した。



(5) スタートカリキュラム（1年）

○小学校は楽しいところだという気持ちを持たせる

朝の活動 ○一日の生活の流れが分かり見通しをもって行動する。

帰りの会 ○今日の楽しかった事や出来事を話し合い、明日に期待を持って帰る。

○明日の持ち物や準備する物を皆で確認し合う。

○クイズやなぞなぞを楽しむ。

配慮点

○入学当初は、新しい環境に慣れず緊張しているので、保育園や幼稚園で習っていた歌やゲーム、絵本の読み聞かせ等を通して、緊張感を和らげたり、先生と学級の皆と楽しいと感じさせたりする。担任との親しい関係作り。

○見通しをもって行動できるように、時計を使って指示したり、一日の活動の順序を掲示したりする。

○給食の準備は、保育園や幼稚園での経験を生かし再確認しながら児童に任せ見守る。「さ

すが！りっぱな1年生」とできたことを認めてあげ意欲的に取り組めるように言葉かけをし、自己肯定感を高める。(片づけや清掃等も含む)

- ロッカー・机の引き出しの整理整頓をし、学用品は自分で管理できるようにする。使った物は元の場所に戻す。



《けんけんばあそび》なかよしタイム



《先生や友達と仲良くする》のんびりタイム

【成果】

- ① アプローチカリキュラムを実践することで楽しみながら自立心・協同性等を身につけることができた。

(6) 思考ツールを活用した学習指導

- 「10の思考ツール」を効果的に活用して授業改善を行う。
- 「思考の可視化」「思考の整理」をしやすくするために思考ツールを活用する。
- 思考ツールを活用した授業実践を行う。(一人一回以上の研究授業)

【今年度の活用事例】

算数 (1・4年)・・・ステップチャート (順序立てる・計画する・構造化する・要約する)

社会や自立 (5年・特支)・・・くらげチャート (理由づける・関係づける・要約する)

国語 (2年)・・・シンキングツール (心情曲線・叙述を即して読み取ったことを視覚的に表現する)

Yチャート (3つの視点を対象に意見を出し新しい考えや課題を見いだす)

総合 (6年)・・・イメージマップ (アイデアを二重、三重に広げる)



【クラゲチャート】

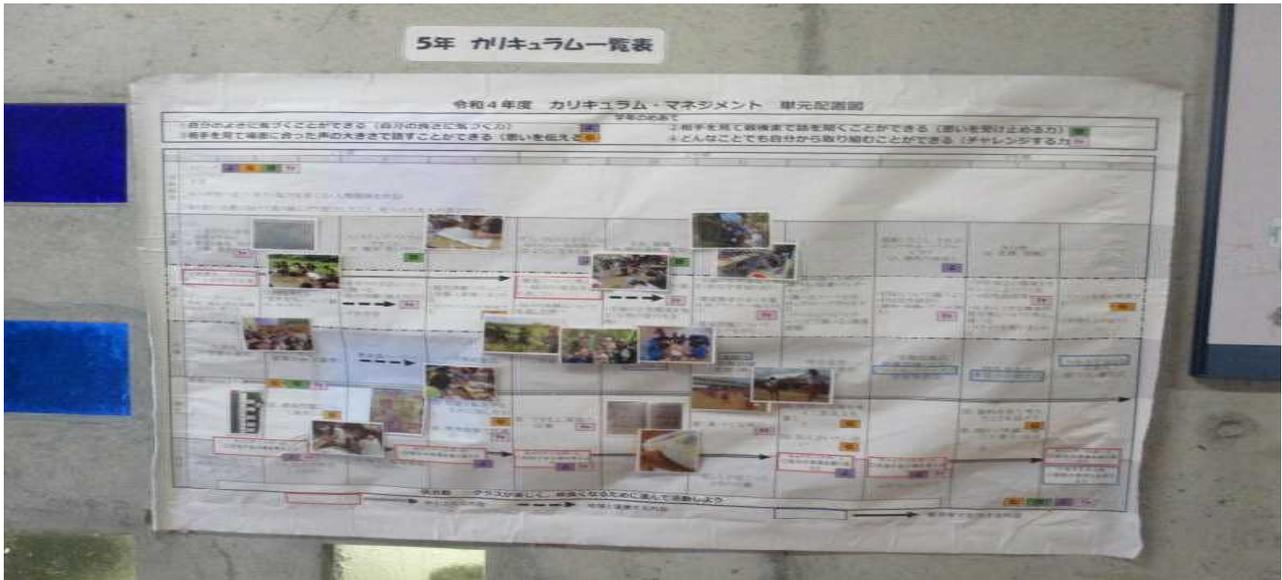


【Yチャート】

3 今後の取り組み

- ① 今年度もコロナ禍で、年度当初に計画していた学力向上の取り組みが十分には実施できなかった。そのため次年度は体験学習も多く実施できるように計画を見直していく。
- ② 生活リズム点検表や玉小ルールアンケートを取ることで児童の意識も高まってきているので、今後も継続して取り組み、児童に自己を振り返る習慣を身につけさせたい。
- ③ **MIM** やコグトレによる成果が見られた。次年度も継続して取り組んでいく。
- ④ クロムブックを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」や「生徒指導の4機能」を活かした授業の日常化等の新たな学習指導にも主体的に取り組む教師を育成する。
- ⑤ 思考ツールを活用し、考えを可視化して話し合い活動を充実させていく。

「南城市玉城小学校カリキュラムマネジメント」



【作成要領】

学校名 南城市立百名小学校	連絡先 TEL : 098-948-1012 E メール : hyakusho-kyoutou@edu.ciyy.nanjo.okinawa.jp
------------------	--

1 実践事項 (①または②)

①「保・幼・こ・小・中・高・地域・関係団体との連携 (幼小・小中・中高・地域)」

タイトル：「地域の教育資源を活用した教育活動の推進」

2 実践内容

地域の方々の協力を得ながら、教育活動の中に地域の文化や伝統に触れる機会を持たせることで、自分の住んでいる地域に誇りのもてる児童を育てていくことをめざし取り組んでいる。地域について学ぶ学習活動では、地域の方々を直接訪問してお話を聞いたり、また、学校にも地域の方々を招いてお話を聞くなど、積極的に学習に関わってもらっている。

3 説明資料 (写真、グラフ、図、表など)

・ 3年生；校区探検

5月に行われた校区探検では、社会科の単元「まちの様子」で、学校のまわりの土地の高低による土地利用の差や、古くからある建造物などについて調査し、調べたことを白地図にまとめた。その後、児童が調べた地域にある史跡などについて地元講師に講話をお願いした。年明けの1月に、校区内の史跡や歴史的建造物について簡単な英語で紹介する予定である。

・ 5年生；地域巡り

5月に行われた地域巡りでは、まちづくり推進課の協力を得て地域をまわりながら、自分たちの住んでいる地域にはどのような文化が生まれ育っているのかを学ぶことが出来た。



・ 5年生；百名の今と昔

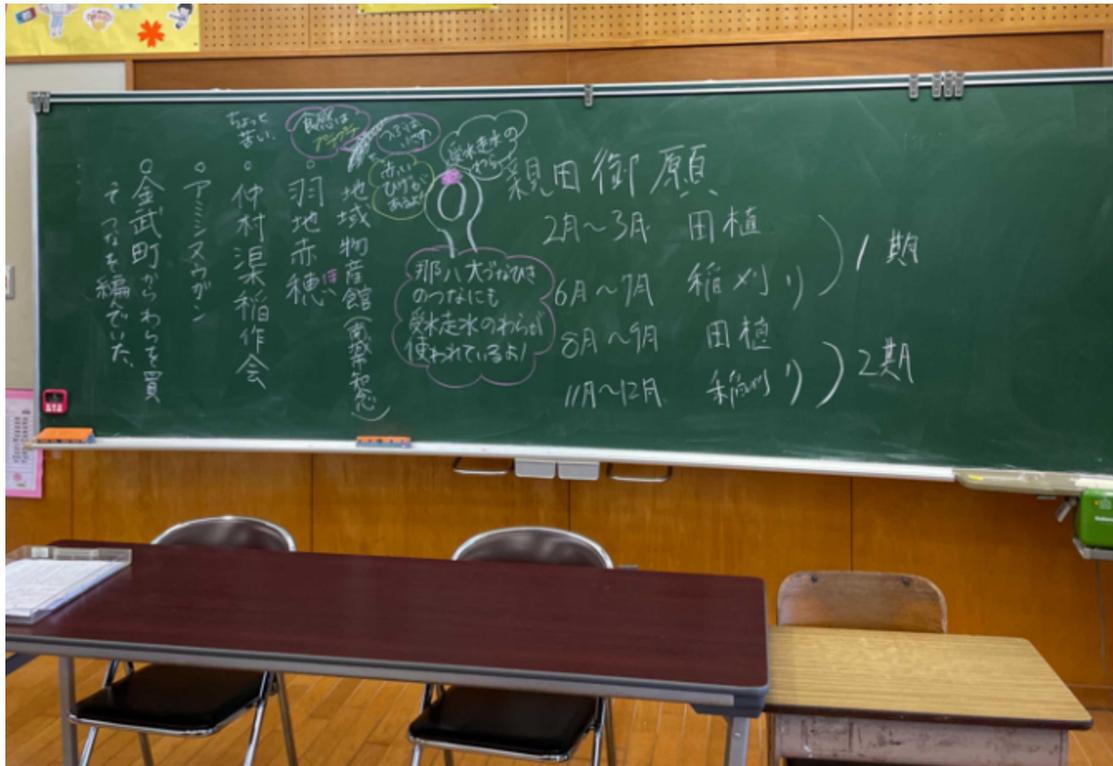
6月に行われた地域の歴史を学ぶ学習で、古くから地域に住んでおられる方をお招きし、戦前、戦中、戦後と人々の暮らしや、地域がどのように変わっていったのかをお話ししてもらった。その当時の体験談なども交えてのお話には、児童は目を輝かせてお話を聞いていた。



5年生；仲村渠稲作会の取り組み

地元の稲作会の取り組みについてのお話を聞く事が出来た。稲作とその地域に係わる行事が密接に関連してしていることも学ぶ良い機会となった。





5年生；田植え

関連機関との協力で、児童の田植え体験を行うことが出来た。本地域を支えていた産業である稲作を体験することにより、地域との関わりがより密接となる貴重な体験となった。



5年生；地産地消メニュー

総合的な学習「私たちの給食から考える～食品ロスを減らす取り組み～」では、旧玉城村内の玉城小、船越小の5年生にも給食に関するアンケートを行い、その結果分かった苦手な食材である野菜や豆類を美味しく、しかも食べ残しがないような給食メニュー開発を給食センターの栄養士との協働で行った。児童が考えたメニューが12月の南城市の給食メニューとして提供された。



5年；しめ縄づくり

児童が育てて刈り取った稲わらを利用して、お正月用のしめ飾りを地域のボランティアの方々と作成することが出来た。児童それぞれの感性とアイデアを生かした作品が完成した。



4 成果

○教育活動に多くの地域の方々が関わることによって、児童の学習意欲も高まり、学習の内容にも深まりが見られた。

5 課題

○この地域の教育資源を、いろいろな学年で、その他の学習で生かすことはできないかさらなる検討が必要である。

【様式】

学校名 南城市立知念小学校	連絡先 TEL : 098-948-1302 Eメール : chinensho@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	---

1 実践事項 (①地域・関係団体との連携)

タイトル：地域との繋がりを大切にする児童の育成を目指して

2 実践内容

地域を学ぶ学習として、各学年で地域人材や関係団体と連携した授業を行った。

3年生

斎場御嶽について、実際に現地での見学を行い、ガイドさんから話しを聞いた。

4年生

地域人材を活用して南城市の史跡巡りを行い、学んだことを活かして観光マップを作った。

5年生

離島体験で伊平屋島を訪ね、地域の方との交流会で、南城市の文化や伝統芸能についてプレゼンテーションを行った。

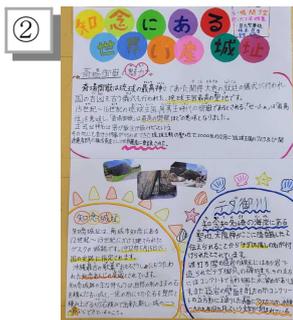
6年生

総合学習「南城市の未来を考えよう」の学習で、南城市を良くするために「海洋ゴミ」と「地域行事」の2つの視点から学習を行った。

- ・ GODAC (国際海洋環境情報センター) とオンラインでつなぎ、海洋ゴミについて学んだ。
- ・ RBCの「美らビーチクリーンプロジェクト」の出前授業で県内における海ごみの実態と、その問題点について学んだ。実際に知念の海(志喜屋ビーチ)でビーチクリーンを行った。
- ・ 世界のうちなーんちゅ大会の出前授業で、アルゼンチンからの留学生から、アルゼンチンで大切にされている沖縄の文化について学んだ。

3 説明資料

- ・ 4年地域巡り「地域のガイドさんによる説明」(写真①)
- ・ 5年生離島体験「知念の文化をプレゼンテーション」(写真②)
- ・ 6年ビーチクリーン「3分間で採れたマイクロプラスチック」(写真③)



4 成果

- ・ 見学や体験活動を通して、実際に目で見たり聞いたりした事で、地域のすばらしさを実感する事ができ、子どもたちにとっても有意義な学習になった。
- ・ 子どもたち自身が、地元の事について知らないということに気付き、改めて地域の文化や伝統に目を向ける児童が増えた。

5 課題

- ・ コロナ禍の影響で停滞していた、地域行事や体験活動を今後さらに、活発にさせていきたい。
- ・ 日程調整や内容についての交渉が担任だけでは難しかった。

理科のカリキュラム一覧表



子どもたちの活動の様子をコメント付きで紹介



学校名 南城市立久高小中学校	連絡先 TEL : 098-948-3515 Eメール : kudaka-kyoto@edu.city.nanjo.okinawa.jp
--------------------------	---

1 実践事項（特色ある取り組み）

特色ある取組（学力向上と伝統で繋ぐ3大行事）

2 実践内容

[中学校]

(1) 朝学習と家庭学習の連動

- ①家庭学習の英単語学習と連動した朝学習での英単語テスト
- ②家庭学習の国語教科書準拠漢字学習と連動した朝学習での漢字テスト

(2) 定期テスト1週間前より、30分の放課後自主学習と質問タイムの実施

- ①定期テスト1週間前より放課後30分の自主学習を実施し、5教科の先生が質問を受けたり、補習の学習を実施（テスト対策の初期スタートの機会としている）

(3) 各教科における総合的な学習の時間と連動したカリキュラムマネジメントの実施

- ①国語の時間における「職場体験」お礼状づくり
- ②理科の植物のつくりと働きを、実際の栽培を通して学ぶ

[小学校]

(1) 校内研修（ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり）との連動

- ①1時間の授業の流れを掲示
- ②ハンドサインを使って考えながら話を聞く

(2) 総合的な学習の時間の充実

- ①少人数を活かして、3・4・6年生合同で総合的な学習の時間を実施
- ②「久高の文化や伝統行事について調べよう」と、地域を題材とした内容を実施。児童の問いから学習計画を立て、チームに分かれて調べ学習をする。積極的に地域へと飛び出し、インタビューや体験活動を行い、わかったことをGoogleスライドにまとめ学習発表会で発表する。
- ③国語の時間に学習したことを生かして「依頼文」や「お礼の手紙」の作成、地域の方にインタビューを行う

(3) 児童総会の実施

今年度行う児童会行事を、全児童が話し合っ決定する。実施が決まった行事は、1～6年が混ざった縦割り班で企画運営し、教師はサポートをする。

[小・中学校合同]

- (1) 幼・小・中合同の地域伝統行事「追い込み漁」の実施
- (2) 幼・小・中合同及び地域も一体で行う「久高島大運動会」の実施
- (3) 幼・小・中合同での「学習発表会」の実施

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）



中学部 お礼状作り



中学部 合同朝学習

ハンドサイン



なるほど！ いいね
わかった おなじきもち
わかるわかる～



もうちょっと
せつめいして～



しつもんしたい
ことがあるよ

小学部 ハンドサイン



小学部 児童総会での話し合い



幼小中合同 追い込み漁



幼小中合同 久高島大運動会

4 成果

[中学校]

- (1) 朝学習における豆テストを、家庭学習及び授業と連動させる取組が定着していて、コツコツ1年を通して学習するシステムが構築できている。
- (2) 定期テスト1週間前の30分自主学習も3年の歴史を経て、当たり前雰囲気になっていて、その後も継続して学習し、90分程度学習を続ける生徒が多い。休日も学校の図書室を利用して自主学習に取り組んでいる。
- (3) カリキュラムマネジメントとして、各教科における探求的授業を数時間程度取り組み、総合的な学習における教科横断型の学習に取り組んでいる。

[小学校]

- (1) 授業UDを取り入れたことで、児童が見通しをもって授業に参加できていたり、学校共通で指導ができていたりしている。
- (2) 総合的な学習の時間では、児童が学習の舵を取ることで、主体的に学習に取り組んでいる。また、学校と地域の新しい繋がりを生み出している。学習発表会では、地域の方々に好評を得た。

[小・中学校合同]

- (1) 久高島の追い込み漁は歴史ある漁法で、毎年学校行事として実施することで、地域を知り、自然の豊かさを感じ、協働する大切さや地域の協力者への感謝の心を育むことが出来た。

5 課題

[中学校]

- (1) 各教科における探求的授業を数時間程度取り組み、総合的な学習における教科横断型の学習に繋げるカリキュラムマネジメントは、始まったばかりでこれから研究を重ねながら取り組む必要がある。

[小学校]

- (1) 今年度は、児童会行事が教師の負担になっている部分があった。児童総会は初めて2年しか経っておらず、どのような形が最適なのか今後も検討していく必要がある。



小学1・2年 カリキュラムマネジメント表



中学部 カリキュラムマネジメント表

【様式1】

団体名：南城市立佐敷小学校	連絡先 TEL：098-947-6212 Eメール：sasho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
---------------	--

1 実践事項 (①) 「南城市立佐敷小学校の取り組み」

2 実践内容

【保・幼・こ・小 連携】

◎スタートカリキュラム

本校では、幼稚園・保育園等から入学してくる児童がギャップを感じずスムーズに小学校生活に
適応できるよう、今年度から、就学直後の特別カリキュラムとして『佐敷小学校スタートカリキュ
ラム』を計画・実施し、連携する保育園・幼稚園等から参観者をつのり、授業や学校生活の様子を
公開した。目的（何のために）及び実践内容（何を）と手立て（どのように）について1学年を中
心に各クラスそろえる実践を意識して取り組んだ。

【小・中 連携】

本校では、算数科・外国語科の指導力向上に向け、地区学力向上推進室開催の各研修・公開授業
に職員を派遣した。

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@長嶺小参観（7月4日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@大里南小参観（9月15日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@佐敷小 代表授業 金城祐大教諭（5年2組）（9月28日）

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@馬天小参観（12月8日）

【地域・関係団体との連携】

◎全体での地域・関係団体との連携

民生委員との顔合わせ・情報交換会(1学期)

広報誌発行(PTA 広報部：各学期)/童話お話大会(PTA 総務部：2学期)

地区陸上競技大会・体育学習発表会(PTA 保体部：2学期)

○低学年

水遊び・水泳学習における保護者見守りボランティアの活用等
交通安全教室（1学期：与那原警察署）

○4年

尚巴志アウトリーチ事業(4月～南城市文化協会)

三線クラブの立ち上げ((5月～講師：大城貴幸さん)

福祉体験学習（1学期：アイマスク・車いす・点字・白杖体験/南城市社会福祉協議会)

仲伊保公民館（10月4日 地域の防災を守る人々）

環境教育(SDGs ワークショップ(2学期) 講師：ミライラボより講師来校)

○5年

田植え体験（1学期）

環境教育(SDGs ワークショップ(2学期) 講師：ミライラボより講師来校)

知念漁港見学(2学期：地域の自然環境・第一次産業に携わる人々)

自然体験ウォークラリーin 玉城青少年の家(2学期：保護者ボランティア)

非行防止教室（2学期：与那原警察署）

○6年

環境教育(自然科学エネルギー(2学期) 講師：琉球大学工学部より講師来校)

着衣水泳出前授業(7月14日)

体育学習発表会エイサー演舞の地謡（琉球古典音楽野村流松村統絃会、沖縄民謡協会より講師来校)



4 成果

- ・保護者地域・関係団体の教育参加意識が高まり、学校・過程・地域社会の相互の協力のもとに、課題や学習に主体的に取り組もうとする児童を地域をあげて育成しようとする雰囲気醸成することができた。
- ・教職員自身が生涯学習者として生活学習の理念の実現に寄与する観点から、より地域の教育資源に対する理解を深め、自己啓発を図ることができた。

5 課題

- ・引き続きコロナの影響が懸念される状況だとしても、子どもたちの学びや保護者・地域の学校教育参画をとめない方法考案していく必要がある。
- ・地域の人材を学校支援ボランティアとして効果的に活用する上で必要となる事前の打ち合わせ等に係る時間の捻出が難しい。

南城市立佐敷小学校の実践

- 1 実践事項（選択テーマ①「保・幼・こ・小・中・高・地域・関係団体との連携（幼小・小中・地域）」）
タイトル：『南城市立佐敷小学校の取り組み』

- 2 実践内容及び説明資料

【保・幼・こ・小 連携】

本校では、保・幼・こ・小連携活動計画として以下のねらいと基本方針及び年間計画を年度当初に全職員で確認し、1学年を中心とし実践に臨んだ。

1. ねらい

- (1) 小学校との連携を図ることによって、保育園・幼稚園から小学校への接続を円滑にする。
- (2) 教師間の交流を通して、幼児教育と小学校教育の相互の教育を理解し、発達や学びの連続性を図る。

2. 基本方針

- (1) 日常的な連携や交流活動を通して、幼児と児童が共に学び合える場にする。
- (2) 教師間の交流（研修会）等を通して、相互の教育の共通理解を深める。
 - ・情報の共有や意見交換を密に行うと共に、授業や保育の参観等を実施する。
- (3) 幼児期から児童期への発達や学びの連続性を図る。
- (4) 無理のないような計画を立て、継続的に保幼小連携が図れるようにする。
- (5) 公立幼稚園が小学校区の結節点となり、保幼小連携の交流を密にする。

3. 実践具体事例

◎スタートカリキュラム

本校では、幼稚園・保育園等から入学してくる児童がギャップを感じずスムーズに小学校生活に適應できるよう、今年度から、就学直後の特別カリキュラムとして『佐敷小学校スタートカリキュラム』を計画・実施した。また、先述した実施計画の日程で、連携する保育園・幼稚園等から参観者をつのり、授業や学校生活の様子を公開した。目的（何のために）及び実践内容（何を）と手立て（どのように）を以下の3点として1学年を中心に各クラスそろえる実践を意識して取り組んだ。

《佐敷小学校スタートカリキュラムの全体像》

① 全体のイメージと考え方（何のために）

② 単元配列表（何を）

③ 週案作成のためのスタンダード（どのように）

①全体のイメージと考え方（何のために）

◎基本的な考え方

- ・ひとり一人の子どもの成長の姿から、デザインする。
- ・子どもの発達の特徴を踏まえ、時間割や学習活動を工夫する。
- ・生活科を中心とした、合科的・関連的な指導の充実を図る。
- ・安心して、自ら学びを広げる学習環境を整える。

◎育てたい子どもの姿

- ・安心して、自己発揮する子ども。
- ・他者との関わりを楽しみ、それを広げようとする子ども。
- ・自分の思いや願いをもち、夢中になって学ぶ子ども。

◎「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」の活用



・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、存分に発揮できるような指導を工夫する。
 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として、ひとり一人の子どもや学級・学年の様子を見とる。

◎佐敷小学校スタートカリキュラムの柱

- ・生活科を中心とした、合科的・関連的な指導
- ・弾力的な時間割の設定
- ・場の設定（フロアマットの活用）

※教室にフロアマットを敷き、のんびりタイムやなかよしタイムで活用した。

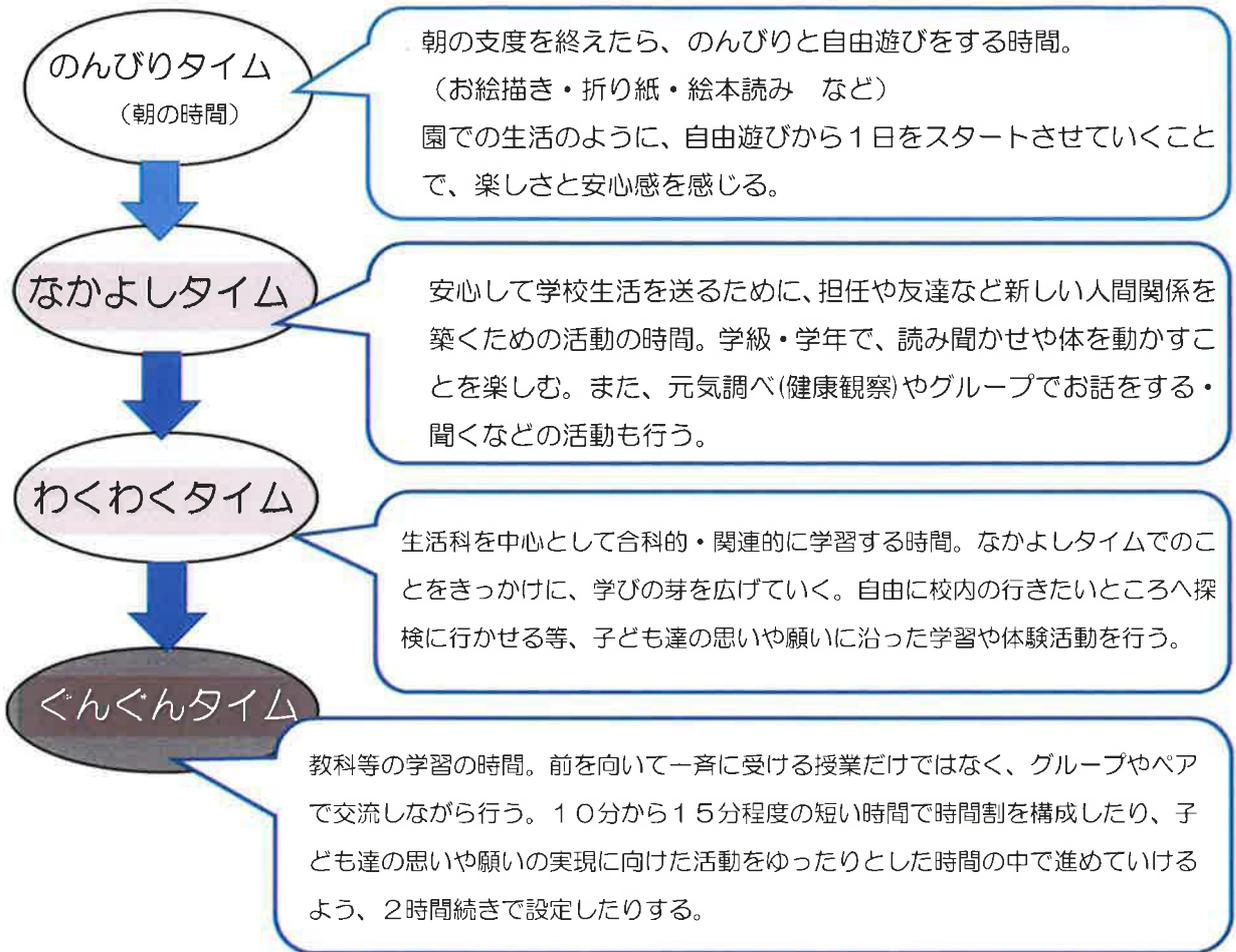


	4月第1週	4月第2週	4月第3週	4月第4週	5月以降
朝の時間	のんびりタイム	のんびりタイム	のんびりタイム	のんびりタイム	のんびりタイム
1校時	なかよしタイム	なかよしタイム	なかよしタイム	なかよしタイム	わくわくタイム
2校時		わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム
3校時	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム	わくわくタイム
4校時		わんわんタイム	わんわんタイム	わんわんタイム	わんわんタイム
5校時	※4月2週目までは午前中授業になります。				

※次ページ『遊びや生活・学習の4種型』の移行スケジュール

合科・関連させた教科を徐々に分化し、教科等学習へ移行

◎遊びや生活、学習の4類型



※各タイム共に、感染予防に留意して実施した。

②単元配列表 (何を)

◎単元の構成と配列を検討する。

合科的・関連的な指導の工夫をする。単元配列上の作成時は「生活」を真ん中にし、「国語」や「音楽」「図工」を近くに配置すると、合科的・関連的に作成しやすくなる。下記のように3種類の線を活用し、単元配列表を作成した。その際、線を多く引けたから良いのではなく、厳選して引き、二重線や矢印で結んだものは必ず実施するように心がけることとした。

入学生	第1週	第2週	第3週	第4週
国語		すうじの学習(算数)		
算数		なかなつくりどろり		
英語		ひらがなの学習 (ひらがなのあひせ・習字)		
生活		わくわくどきどきしょうごう(学校存続)		
音楽		うたってあそぶ(うた) / うたってあそぶ(うた)		
図工		ひまわりと / ねんこのおぼろり		
体育		ひまわりと / ひまわりと		
道徳		みんなであそぶ / みんなであそぶ		
学芸		タブレットのあそび / タブレットのあそび		
行事		入学式 / 入学式		

	縦方向	斜め(例)
合科的な指導	各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開することで、指導の効果を高める	【合科】生活科を中心とした単元の学習活動において、複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開することで、指導の効果を高める
関連的な指導	教科毎別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の順序や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの	【関連A】生活科の学習成果を他教科等の学習に生かす 【関連B】他教科等の学習成果を生活科の学習に生かす

※『発達や学びをつなぐスタートカリキュラム』より

③週案作成のためのスタンダード（どのように）

◎週の計画と時間配分を検討する

弾力的な時間割の設定の工夫をした。生活リズムや一日の過ごし方に配慮するために「なかよしタイム」を朝の会から1時間目を連続した時間として設定したり、ぐんぐんタイムは10分～15分程度の短い時間を活用したり、集中力が続きやすい2時間続きの学習活動を位置づけたりする工夫を取り入れた。

※本校では、①4月～連休頃まで と ②2学期始めの2週間 に設定した。

◎佐敷小学校の単元配列表・週案のポイント

単元配列表

- ・スタートカリキュラムの期間を限定し、4月から5月連休頃までの1カ月間とした。
- ・合科的・関連的な指導を徹底的に精選し、学習成果が上がる指導を共通実施した。
- ・合科的・関連的な指導は二重線と矢印で、分けて記載した。
- ・生活科を真ん中に位置づけ表現しやすいように国語、図工、音楽などをその前後に配置した。

週案

- ・「仕方・使い方」指導の脱却を図り。園での経験を活かし、教え込まないよう工夫した。
- ・なかよしタイムを見直し、思い切った時間の確保を行った。
- ・わくわくタイム（学校探検）を充実させた。みんなためあてを立てて実行し、次のめあてを立てる学習の基本とさせた。

【小・中 連携】

本校では、算数科・外国語科の指導力向上に向け、地区学力向上推進室開催の各研修・公開授業に職員を派遣した。

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@長嶺小参観（7月4日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@大里南小参観（9月15日）

◎小中連携合同研究会（外国語）@佐敷小 代表授業 金城祐大教諭（5年2組）（9月28日）

◎小中連携合同研究会（算数・数学）@馬天小参観（12月8日）

【地域・関係団体との連携】

◎全体での地域・関係団体との連携

民生委員との顔合わせ・情報交換会(7月1日)

広報誌発行(PTA 広報部：各学期)/童話お話大会(PTA 総務部：2学期)

地区陸上競技大会・体育学習発表会(PTA 保体部：2学期)

◎各学年における地域人材・教育資源を活用した取り組み

○低学年

水遊び・水泳学習における保護者見守りボランティアの活用等

交通安全教室 (1学期：与那原警察署)



○4年

尚巴志アウトリーチ事業(4月～南城市文化協会)



三線クラブの立ち上げ((5月～講師：大城貴幸さん)

福祉体験学習 (1学期：アイマスク・車いす・点字・白杖体験/南城市社会福祉協議会)



仲伊保公民館 (10月4日 地域の防災を守る人々)



環境教育(SDGs ワークショップ(2学期) 講師：ミライラボ：重信さん)

○5年 田植え体験（1学期）

環境教育(SDGsワークショップ(2学期) 講師：ミライラボ：重信さん)

知念漁港見学(2学期：地域の自然環境・第一次産業に携わる人々)

自然体験ウォークラリーin 玉城青少年の家(2学期：保護者ボランティア)



非行防止教室（2学期：与那原警察署）

○6年

環境教育(自然科学エネルギー(2学期) 講師：琉球大学工学部 浦崎直光さん)

着衣水泳出前授業(7月14日)



体育学習発表会エイサー演舞の地謡（琉球古典音楽野村流松村統絃会、玉寄英一さん、城間勇紀さん、沖縄民謡協会運天千敏）

3 成果

- ・保護者地域・関係団体の教育参加意識が高まり、学校・過程・地域社会の相互の協力のもとに、課題や学習に主体的に取り組もうとする児童を地域をあげて育成しようとする雰囲気が醸成することができた。
- ・教職員自身が生涯学習者として生活学習の理念の実現に寄与する観点から、より地域の教育資源に対する理解を深め、自己啓発を図ることができた。

4 課題

- ・幼小連携における期間限定で実施したスタートカリキュラムにて、教科の進度計画が当初予定より遅れる中、コロナ等長期の欠席で学習にさらに遅れが生じる児童が少なからずいたため、そのフォローアップに係る時間と教材準備に追われることがあった。
- ・保護者・地域連携に関して、引き続きコロナの影響が懸念される状況だとしても、子どもたちの学びや保護者・地域の学校教育参画をとめない方法考案していく必要がある。
- ・地域の人材を学校支援ボランティアとして効果的に活用する上で必要となる事前の打ち合わせ等に係る時間の捻出が難しい。

【作成要領】

学校名 南城市立馬天小学校	連絡先 TEL : 098-947-6535 Eメール : basho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

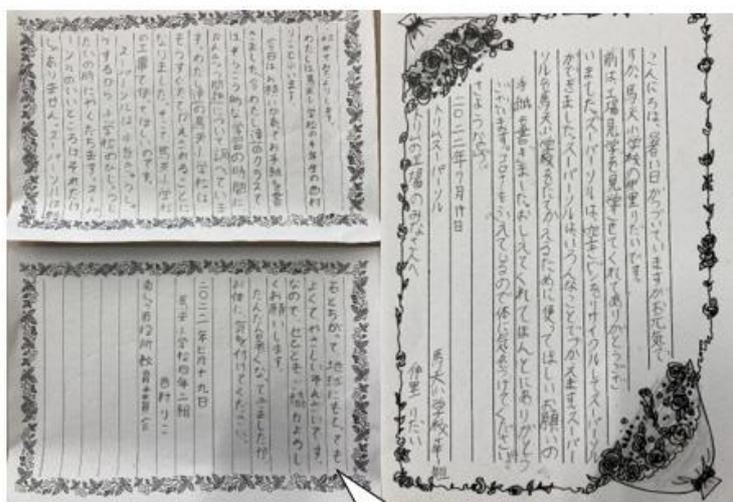
1 実践事項

タイトル：「〈チーム馬天〉で取り組む学力向上」

2 実践内容

(1) カリキュラムマネジメントの取り組みにおける学習指導

「目ざす児童像」に基づいて設定された「思いやる心」「表現する力」という資質・能力に重点を置き、それらが教科領域間で意図的・計画的に育成できるよう学年ごとにカリキュラムをデザインした。教科を横断的に学ぶことで、質的な学びの向上を図り、学期ごとに取り組む内容について情報交換を行うとともに、成果と課題を見いだしながら進めた。



社会科	ごみはどこへ	国語科	お祝いやお礼の手紙を書こう
空き瓶をスーパーソルにリサイクルする。 「株式会社トリム」の工場見学に行きました。		「株式会社トリム」にお礼の手紙と、南城市役所に馬天小学校の校舎建築の時でスーパーソルを使ってほしいとお願いの手紙を書きました。	

総合	環境エコプロジェクト
国語	みんなで新聞を作ろう
1学期のテーマの環境学習のまとめとして、新聞にまとめました。	

教科横断的なカリキュラムの実践（4学年）

(2) 具体的な取り組み

①校内研と連動した授業の質的改善の取り組み

学力向上の取り組みと校内研の取り組みを連動させ、これまでの児童の実態から、国語科を中心に、児童が自分の考えを説明する場（表現力を高める場）を設定するようにした。また、児童が主体的に学習に取り組む授業展開ができるように、日常の授業の質を高める研究を各学年で行った。

②「そろえる馬天⑩」による学習環境づくり

「そろえる馬天⑩」を設定し、生活や学習の規律を図り、全ての児童が落ち着いて学習に取り組める環境を整えた。また、オンライン放送等で共通理解を図ったり、集会委員会が「みんなで協力、すてき清掃週間」などを年に数回設定したりして取り組みの浸透を図った。

③語彙を増やし、読む力を高める朝の学習の推進

各種学力調査を通して課題となっている語彙力や読む力の育成を目ざし、国語科を中心に専用のテキスト等を使いながら、朝の15分の学習時間（モジュール学習）を継続的に行った。また、学校図書館を活用して、図書の時間には学校司書による本の読み聞かせや本の紹介を行い、読書を通じて、集中力を養い、読む力を高めるようにした。

④自主的な家庭学習の推進

宿題と家庭学習を区別し、教師から与えられた課題のみに取り組むのではなく、児童が自分に必要な学習を自ら考え取り組む家庭学習を「未来ノート」と名付け、各学年の児童の実態に応じて取り組んでいる。「新しい宿題」の考え方にに基づき、個人でできる学習は宿題（家庭学習）で行い、授業では互いの意見を出し合って深める協働的な学びを進め、限られた時数の中で効果的な指導を行った。

⑤生活リズムの確立に向けた取り組み

「早寝」「早起き」「朝ご飯」の基本的な生活習慣に基づいた生活リズムの確立を目指し、各学年学級において、学級指導を行った。また、1学期の調査から、全学年で「早寝」に課題が見られたことをもとに、専門家を招き、睡眠の大切さについて講話を通して学んだ。



講師による講話

⑥ICTを活用した授業の事例

4年生では、総合で世界のウチナーンチュ大会の講師の方をオンラインで繋ぎ、講師の方から世界のウチナーンチュ大会について学ぶことができた。また、国語科の「ふるさとの食を伝えよう」では、沖縄のふるさとの食のよいところを横浜市の小学生に伝え、交流を図ることができた。



オンラインを活用した授業

5年生では、Google が現在、学校向けに開発しているアプリの検証授業を算数科と社会科で行った。ペアで話している会話を、クロムブックにあるソフトが読み取って、会話の内容を瞬時に教師の端末に送られる仕組みとなっていた。児童同士が、積極的に意見を交換し、自発的な活動が見られた。



Google の検証授業

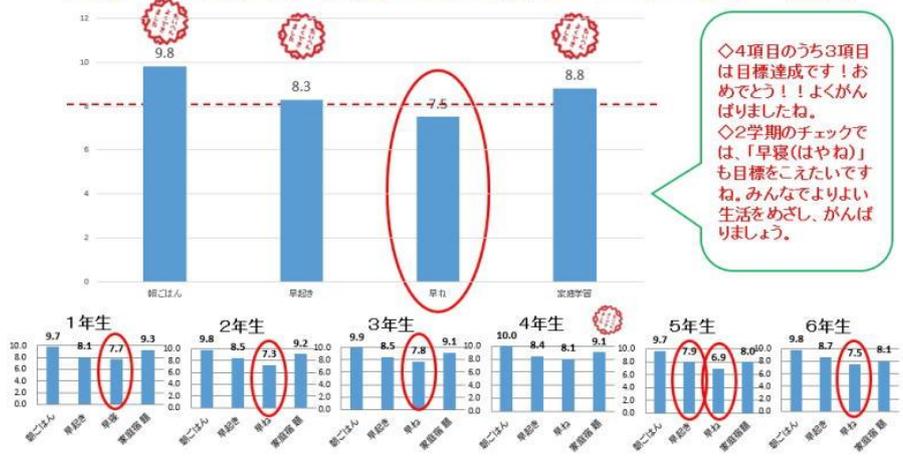
3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

(1) 視覚的カリキュラム一覧表の例（4学年）

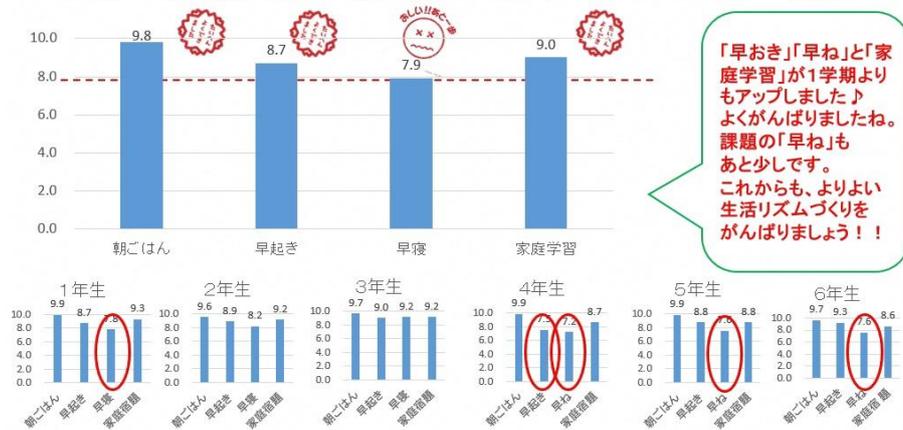
4学年のカリキュラムデザイン

(2) 生活リズムチェック表の成果と課題

令和4年 馬天小学校 5月生活リズムチェック 結果



令和4年 馬天小学校 9月生活リズムチェック 結果



4 成果

○目ざす児童像を職員が共有し、身につけさせたい資質・能力をベースに教科領域を横断するカリキュラムを計画実施することで、コロナ禍において時数が制約された中でも、効果的な指導を進めることができるようになってきている。

○よりよい生活習慣を形成するために、学級単位での指導や外部講師を交えての授業を積極的に行うことで、生活リズムチェックの結果に改善が見られた。

5 課題

●自主的な家庭学習の推進は、昨年度から継続的に実施しているが、質の高い学習ができない児童が一定数いる。やり方を具体的に指導するなど、丁寧な対応や取り組みの工夫が必要である。

学校名 南城市立大里北小学校	連絡先 TEL : 098-945-2362 Eメール : ookita-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
--------------------------	--

1 実践内容

タイトル：

「主体的に学習に取り組み、他者との交流を通して「確かな学力」の向上を図る」

(1) 校内研修を通じた授業改善

国語科を中心とした校内研修を通して、評価の設定や単元計画の立て方を見直し、全職員が同じベクトルを意識した授業づくりを行っている。

(2) 学習の基板となる規律の徹底

「確かな学力」の定着に向け、その素地となる学習規律を身につけさせるため、「大里北10の学習ルール」を設定し、児童の意識づけを行っている。

(3) 家庭学習の取り組み方

授業で学習した内容をその日の内に復習できるように声かけや例を示し、学習内容の定着を図る。

(4) カリキュラムマネジメントの取組における学習指導

4月と夏休みに教科横断的な学習の実践にあたって、効果的に学習を進めるために、カリキュラムマネジメントの確認と見直しを行った。

2 具体的な取組

(1) 校内研究テーマを意識した教材研究の実践

- ① 全員が授業公開を校内で実践し、授業展開の仕方などの助言を職員間で行っている。また、授業後に管理職と反省の場を設定し今後の授業づくりに役立てている。

(2) 算数科等における授業展開の実践

- ① 算数科や理科等の授業において、全校統一した学習スタイルで授業を展開している。
- ② 黒板を3分割して授業の流れを提示し、学習の流れに見通しを持たせている。
- ③ 児童の「思考力・判断力・表現力」の向上をめざし、前時の振り返り・問題を読む・めあて・予想の交流・自力解決・交流活動・まとめ・振り返り等表現する場を授業の中で数多く実践している。
- ④ 「めあて」と「まとめ」を正対させるため、「めあて」の一文を使って「まとめ」の書き始めを提示し、ゴールの見通しを持たせている。



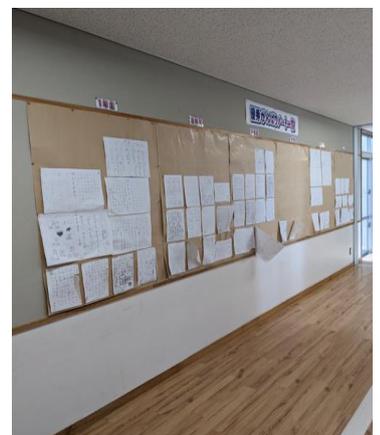
予想の交流

(3) 学習規律の徹底（大里北10の学習ルールの実践）

- ① 毎月児童に10の学習ルールのアンケートを実施し、自分ができるようになったことや課題を意識させている。

(4) 優秀な家庭学習の例示

- ① 各学級から家庭学習の取り組み方が優秀な物を選出し、廊下に掲示することで、児童が学習への取り組み方を自主的に改善・工夫できるようにする。



優秀家庭学習の例示

団体名	連絡先 TEL : 098 - 945 - 2455
南城市立大里南小学校	Eメール : ozatominamisho@edu.city.nanjo.okinawa.jp

1 実践事項 (①「特色ある取り組み」)

タイトル:「児童と教師が『学び・育ち』を実感するカリキュラム・マネジメント表」

2 実践内容

本校では、令和2年度より、教科等横断的な指導に役立てるためにカリキュラム・マネジメント表を活用していた。そのカリキュラム・マネジメント表について、本年度は、学校教育目標やめざす子ども像に迫ることを目指したカリキュラム・マネジメント表となるよう改善し、活用している。

従前のカリキュラム・マネジメント表では関連する単元をつなげることだけが目的になってしまうことも考えられたので、児童の学習や行事に対するふり返り等を写真と共に掲載し、児童の「学び・育ち」が実感できるようにした。この表を学年の掲示板に貼り児童と共有することで、児童は自身の努力や成長を実感でき、教師はPDC Aサイクルをくり返して、指導の充実を目指すことができるものとなっている。

3 説明資料 (写真、グラフ、図、表など)



【3年生のカリキュラム・マネジメント表】

◎校内研修のテーマが「問いのつながりを生かした数学的活動」であるが、算数だけでなく他教科でも見られた児童の問いが、吹き出しを用いて書かれている。児童の主体的な学びをみとることができる。



【4年生のカリキュラム・マネジメント表】



◎「総合的な学習の時間」。4年生は1学期の「職場見学」と2学期の「お仕事調査隊」で、たくさんの地域の方と関わり、学習を展開した。

カリキュラム・マネジメント表の上部には、「お仕事調査隊」で関わった方々からいただいた4年生へのメッセージが掲示されている。また、表の下部の付箋には、「お仕事調査隊」でインタビューした際の児童の感想が掲示されている。

【6年生のカリキュラム・マネジメント表】



◎左の写真は、「委員会発足式」「1年生のお世話」の時の感想。カリキュラム・マネジメント表の周りには、児童の活躍を示す新聞記事などが貼られている。6年生は、学校生活全体で最高学年として活躍し、中学校へ進学していく見通しを持てる工夫がなされている。

4 成果

- 学校教育目標やめざす子ども像の実現に向け、教科等横断的な指導、単元を見通した指導について修正し、次年度の指導をさらに効果的にすることができる。
- 教師が子どもたちの姿を通して校内研究の意義や効果を実感することができた。
- 学校のホームページに、全学年のカリキュラム・マネジメント表を掲載しているので、保護者とも共有できる。

5 課題

- ▲掲示するだけに留まっている学年もあるので、教師がフィードバックして児童に「学び・育ち」を実感させる機会を確保したい。

【様式】

学校名 南城市立知念中学校	連絡先 TEL : 098-948-1303 Eメール : chichu-kyoutou@nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

タイトル：「主体的・対話的で深い学びにむかう力の育成」

1 実践事項（①または②）

【取組1】地域教育資源の活用

○各教科、第一次産業体験学習、職場体験学習、平和集会等で、地域の自然、文化、産業や人材を活用した学習を行う。

【取組2】学習環境の充実

○黙想、チャイム前入室・着席、学習用具の準備等、「本校学習のきまり」の徹底及び家庭学習の習慣化を図る。

【取組3】知学タイムの実施（基礎基本の徹底）

○知学タイム確認テスト正答率を、国語7割、数学6割、英語1年7割、2年6割、3年6割とし、全生徒の80%以上が、その達成値を突破する。

○学力向上Webシステムを活用し、Webシステムの活用問題を知学タイムに取り入れていく。

【取組4】確かな学力の充実

○全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査において、全教科で県平均正答率を上回り、無回答を減少させる。

○学力向上月間の取組を全校体制で実施する。

【取組5】校内研修の充実

○各教科研究テーマを設定し、一人一公開授業及び三参観、授業研究会を行う。

【取組6】「知・徳・体」の3つの教育目標の連鎖

○全学年で生徒が3つの学校目標から学年・学級目標と連動させ学期毎に目標設定・自己評価する。

2 実践内容

【取組1】地域教育資源の活用

①平和学習にて、屋号26の人々の戦争体験について学ぶ

②3年ぶりに1年で1次産業体験（10事業所）、2年で職場体験（17事業所）を3日間実施。



平和学習会



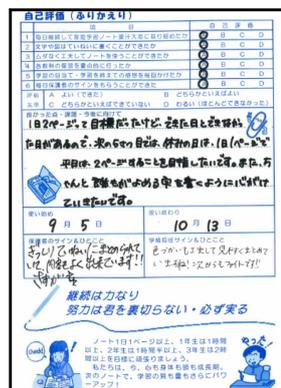
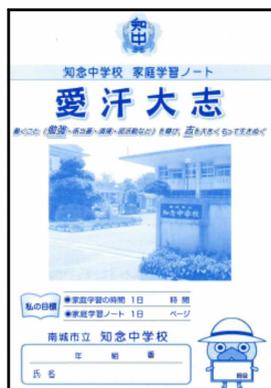
1次産業体験（漁協）



職場体験（消防）

【取組2】学習環境の充実

- ①毎週金曜日の帰りの会では、机、ロッカーを整理整頓させ下校（整理整頓の日）、
- ②本校独自の家庭学習ノート（愛汗大志）を使用し、年間5冊以上を目標に取り組んでいる。
- ③愛汗大志1冊終了ごとに、校長に提出し、終了証をもらい、家庭学習山登り表に記録する。



愛汗大志(家庭学習ノート)

家庭学習山登り表

【取組3】知学タイムの実施

- ①年間実施計画を作成し、週4回、朝の20分間（8:25～8:45）に実施する。
- ②国語・数学・英語を年間を通して実施する。
- ③月末に「知学タイム確認テスト」を設け、学習内容の定着を図る。
- ④国教英の担当教師以外はTTとして関わり、全職員で指導にあたる。



知学タイム

【取組5】校内研修の充実

校内研修の研究テーマ『主体的・対話的で深い学びに向かう力と学びの質を高める「授業改善」』のに沿って授業づくりを教科研究部会で検討、実践を行っている。

また、本年度は、指導主事招聘授業を5名の教諭が行った。

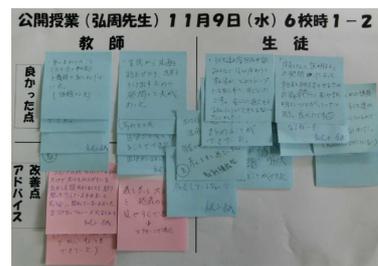
授業者は、授業プランシートを作成し、授業を公開する。「付箋紙大作戦」として、公開授業後は良かった点やアドバイスを付箋紙に記入し担当へ提出する。授業後振り返りを行う。また、ICT機器（クロムブック）等を活用した授業の実践も行い、生徒の理解を深めたり、学習意欲の向上に繋がっている。



グループ学習



クロムブックの活用



付箋紙大作戦

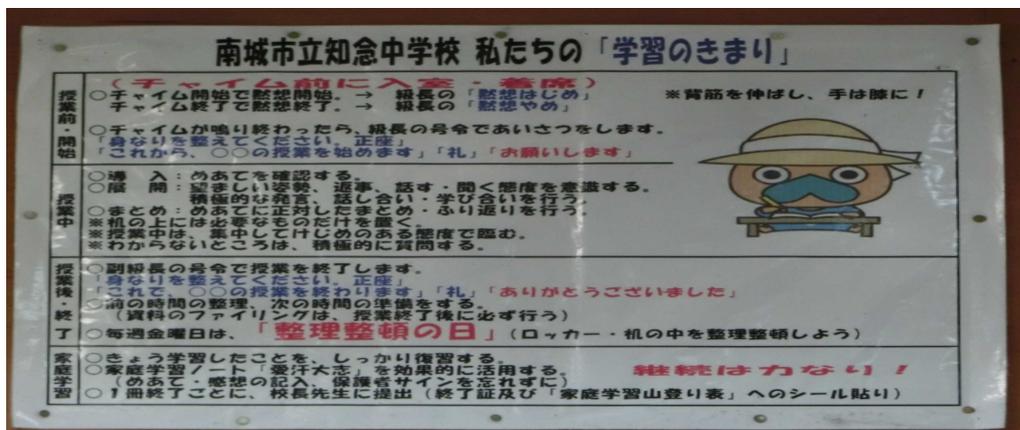
特に、英語科では、南城市小中外国語研修会で、文科省調査官を招聘し、授業研究会を行った。それに向け、琉大教授や市教育委員会の指導主事の指導を仰ぎ、日々の授業づくりに取り組むことができた。

3 説明資料

① 知学タイムの年間計画

月別計画表						年間合計(回)										
月	学年	教科	回数	月	学年	教科	回数	月	学年	教科	回数	1年	2年	3年		
4	1			5	1	国語	5	6	1	英語	6	年間計	国語	18	15	17
	2				2	数学	5		2	国語	6		数学	18	18	14
	3				3	英語	5		3	数学	6		英語	15	18	17
7	1	数学	3	9	1	国語	6	10	1	英語	4		総計	51	51	48
	2	英語	3		2	数学	6		2	国語	4					
	3	国語	3		3	英語	6		3	数学	4					
11	1	数学	7	12	1	国語	4	1	1	英語	5					
	2	英語	7		2	数学	4		2	国語	5					
	3	国語	5		3	英語	3		3	数学	4					
2	1	数学	8	3	1	国語	3									
	2	英語	8		2	数学	3									
	3	国語	9		3	英語	3									

② 教室前面に私たちの「学習のきまり」を掲示し、確認している。



4 成果

- ・知学タイムの学習をわかりやすく、役に立っていると肯定的に捉えている生徒が、86.1%いる。
 - ・家庭学習強化月間では、曜日ごとに教科を決め、授業と連動した課題を与え、学習することができた。
 - ・一人一公開授業をすることで、教師一人一人の授業に対する意識が高まり、授業改善が推進されている。
 - ・英語で学習した自分の意見の伝え方（OREO）を、他の教科でも活用しており、教科横断的な授業につながっている。
- また、授業に熱心に取り組む生徒が増え、学期末テストでは平均点が10ポイント上がった。

5 課題

- ・基礎学力の定着が不十分な生徒への具体的な支援
- ・愛汗大志の内容の充実と教科のバランス
- ・クロムブックの有効な使い方(情報モラルを含む)
- ・全国学力学習状況調査、県学力調査等で県平均正答率を上回り、正答率30%未満者の減少を目指した更なる授業改善。

(1) 実践事項

特色ある取組を通して、確かな学力の定着を図る
「学びの質を高める授業づくり」

(2) 実践内容

1 「確かな学力」の育成を目指した授業改善について

- ① 校内研修での全体研修会の実施
- ② 1人1回以上の公開授業の実施
 - ・公開授業を実施する際には、職員室の黒板や週報に掲載、他の職員への周知を図る。
 - ・「授業プランシート」を作成し、当該教室前で配布する。
 - ・授業後は、参観シートに良かった点や改善点等を記入し、授業者に還元する。
 - ・授業の様子を写真に記録し、職員室に掲示する。
- ③ 公開授業等を実施した後での教科会における授業リフレクションを行う。
- ④ 主事招聘授業（英・国・数・道）による授業後の教科別研修会を実施する。

2 家庭学習の習慣化について

- ① 平日は5教科中心とした家庭学習（教科・内容は生徒自身で決定）とする。
 - ・家庭学習の質の向上を目指し、基本的に生徒各自の学習能力に合わせた内容とする。
 - ・定期テスト前の学力向上強化期間では通常1ページに+アルファとする。
（テスト対策プリントや各教科の問題集、塾のプリントなどをプラスする）
- ② 家庭との連携を図るため、ノートに保護者のサイン欄を設ける。
- ③ 家庭学習ノートを学校で準備しておき、取り組みが終わった生徒が1冊終了する度に校長へ提出し、校長の激励の下、新しいノートを配布する。
- ④ 生徒会委員会による家庭学習週間の取り組み
 - ・定期テスト前に、学習委員会による家庭学習強化週間を設定する。
 - ・提出率を学級ごとに集計し、意欲を高めるために年3回の定期テストごとに生徒会学習委員会主催で「スタディカップ」を開催する。
 - ・提出率上位の学級には学校独自のポイントを付与し、年度末の学級賞の参考にする。
 - ・給食時間の校内放送を利用して、各クラスの提出状況の中間発表でやる気を促す。

3 読書活動の推進について

- ① 図書館担当や図書館司書と連携し、年間目標読書冊数40冊を設定し取り組む。
- ② 教務と連携し、朝の会や帰りの会を図書館で実施する学級の割り当てを週報に掲載し、生徒が本を借りやすい環境作りに努める。
- ③ 各部活動のキャプテンや職員による「おすすめの1冊」のコーナーを設置し、生徒の興味関心や読書意欲を高める。
- ④ 季節毎に各行事にちなんだイベントを設定し、生徒が図書館に向かいたくなるような雰囲気作りに努める。（図書館内外の掲示物の充実も図っている）

4 学習規律の徹底について

- ① 授業開始の徹底
 - ・2分前入室を確実にし、チャイムと同時に級長からの号令で授業を開始する。
- ② 授業中の姿勢についても年度初めに学級担任を中心に「立腰」を呼びびる。
 - ・テストの際は休み時間を15分間に設定、落ち着いて取り組めるように配慮する。

(3) 説明資料



ALTの積極的な活用



積極的なグループ活動



高校調べ



自らの意見を発表



企業から提示されたミッションに取り組む



ICTを積極的に活用



核心にせまる発問の工夫

諸調査の結果

学びのたしかめ	佐敷中	南城市	島尻地区	沖縄県
1年国語（14点）	6.2点	6.5点	6.4点	6.6点
1年数学（16点）	9.1点	9.3点	9.2点	9.0点
2年国語（15点）	6.1点	6.5点	6.5点	6.6点
2年数学（16点）	9.0点	6.7点	7.0点	6.9点
2年英語（32点）	16.2点	13.9点	14.8点	14.8点
3年英語（37点）	17.8点	16.0点	16.1点	16.3点

全国学テ	佐敷中	南城市	島尻地区	沖縄県
3年国語（14点）	8.2点	8.6点	8.5点	8.8点
3年数学（14点）	5.4点	5.6点	5.9点	5.8点
3年理科（21点）	9.3点	9.6点	9.4点	9.4点

（4）成果

- ① 今年度から中間テストを廃止して、単元テストと定期テストのみにしているが、生徒が普段の学習にメリハリをつけやすくなっている。
- ② 学習規律を意識して行動できる生徒が増え、ほとんどの生徒が2分前入室ができていますので、各授業とも開始がスムーズに行われている。
- ③ 公開授業を受けての授業参観シートを活用して、他教科の先生から助言を得たり、各教科で授業リフレクションを行うことで授業力の向上を図ることができた。
- ④ 各教科での授業リフレクション、家庭学習の習慣化（内容の充実も含めて）等を続けてきた結果として、諸調査の結果では県平均を上回ることが多くなった。

（5）課題

- ① 自学学習についてはもっと吟味が必要である。学力が低い生徒に関しては、強化期間中にいつも以上に家庭学習を課しても、やらされている学習にしかならない。その子のレベルに応じた基礎問題を集めたワークシートなどを配布する手立てを考える。
- ② 各教科の提出物の期限が近づいたり、単元テスト当日だと朝の読書時間に課題に取り組む生徒が多い。読書強化旬間などの設定が必要である。
- ③ 他教科の授業参観をする機会があまり作れなかったため、時間調整の工夫が必要である。授業者が早めに授業する日を提示して、他教科の先生がそれに合わせて時間割を前もって調整するようにする。

令和4年度沖縄県児童生徒質問紙調査（12月実施）

質問番号	※ 上段：自校平均／下段：県平均 ア 当てはまる イ どちらかといえば当てはまる ウ どちらかといえば当てはまらない エ 当てはまらない	※ 質問番号15のみ ア ほぼ毎日 イ 週1回以上 ウ 月1回以上 エ 月1回未満			
		ア	イ	ウ	エ
01	自分にはよいところがあると思いますか。	39.3	47.0	12.0	2.5
		39.2	45.5	10.6	4.6
02	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	47.5	42.5	6.1	2.2
		45.0	44.1	6.8	2.8
03	学校に行くのは楽しいと思いますか。	49.6	35.8	9.4	3.1
		43.3	38.0	11.6	5.9
04	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。	62.6	28.7	6.5	0.3
		63.5	29.1	4.6	1.7
05	学校のきまり（規則）を守っていますか。	57.4	34.9	4.7	0.5
		60.0	34.5	4.0	0.8
06	人が困っているときは、進んで助けていますか。	42.6	45.7	9.8	0.8
		38.7	38.7	11.1	1.7
07	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	89.1	7.5	4.1	0.0
		80.8	14.7	2.6	1.0
08	家で自分で計画を立てて勉強していますか。	18.3	37.9	32.2	10.4
		18.2	35.0	29.7	16.0
09	これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	29.2	53.7	13.7	2.8
		30.2	49.8	15.4	3.5
10	学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	45.8	41.7	8.7	2.7
		40.2	44.4	11.0	2.8
11	勉強で努力することは大切だと思いますか。	76.6	19.6	1.9	0.5
		71.4	23.8	2.4	1.1
12	先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	51.8	40.1	5.7	1.4
		46.4	43.0	7.4	2.2
13	学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。	49.0	38.5	9.8	1.6
		43.0	41.6	10.4	3.6
14	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。	34.1	50.7	11.9	3.0
		36.4	48.2	11.1	3.4
15	これまでに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度利用しましたか。	64.1	27.7	6.0	1.9
		40.5	46.7	10.3	2.2

学校名 南城市立大里中学校	連絡先 TEL：098-945-2442 Eメール：oochu-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
------------------	--

1 実践事項（①または②）

- ②「特色ある取組」（カリキュラムマネジメント・ICTを活用した事例等・新学習指導要領に関連した実践等）

「新学習指導要領における学習評価の工夫・改善」

2 実践内容

- (1) 新学習指導要領における学習評価の工夫・改善
- (2) 島尻教育事務所教科総合訪問の取組
- (3) 授業改善の取組（一人一公開授業）
- (4) 配慮を必要とする生徒への指導と対応
- (5) その他の取組（①小中連携の取組②放課後補習の取組）

3 説明資料

(1) 新学習指導要領における学習評価の工夫・改善

令和4年8月23日(火)の校内研修において、沖縄県立総合教育センター教科研修班の山城高雄指導主事をお招きし、「学習評価の工夫・改善」について講話を賜った。講話で山城指導主事は、学習評価の基本的な考え方や「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイントについて、数学科の事例をもとにお話しいただいた。また、主体的に学習に取り組む態度の評価については、評価ルーブリックを用いた評価方法に関する提案があり、講話の最後には、山城指導主事自身の数学の授業実践を紹介しながら、定期テスト作成に関する工夫・改善について提案もあった。



学習評価の基本的な考え方について



職員からの質問に答える山城指導主事



評価ルーブリックを用いた学習評価の提案

〔先生方の感想〕（一部抜粋）

- ・評価方法・内容に関しては、先生同士でしか共有していませんでした。今回の研修を通して、ルーブリック等を活用して、生徒にも共有して意識させる必要があると思いました。
- ・記録に残る評価や学びの足跡を実際に使って評価を行うとともに、自分のやり方を見極めながら自分流を固めていきたいと思いました。
- ・記録に残す評価、評価のルーブリックや評価の総括の着想など、とても勉強になりました。ルーブリックは、教科会などで話し合いたいです。
- ・評価に関して、きめ細かな準備が必要だと感じました。単元ごとの評価計画、ルーブリック的指標、記録に残すまたは残さないなど、これまで以上に工夫改善していきたいと感じました。そこに行き着くためには、問いが生まれる授業にしっかり取り組まなければとも感じました。

(2) 島尻教育事務所教科総合訪問の取組

令和4年9月13日(火)に島尻教育事務所教科総合訪問が行われた。国語、数学、英語、道徳の4教科で指導主事を招聘し代表授業を行い、学習評価の工夫・改善をテーマに各教科で授業研究会を行った後、全体会を行った。



3年国語 糸洲里南 教諭

〔授業参観コメント〕 島尻教育事務所：副田指導主事

- ワークシート、アドバイスの形、タブレットなどの準備がしっかりできているので、生徒の動きがスムーズであった。
- 教師が授業づくりに前向きであり、また、教科会等でも授業づくりについて話し合いがされ、授業改善の取組が行われている。
- 指導事項（評価規準）を明確にすることで、より良い授業づくりに繋げて欲しい。



2年数学 大村智子 教諭

〔授業参観コメント〕 島尻教育事務所：奥原指導主事

- GeoGebra（関数ソフト）やデジタル教科書、拡大用紙など効果的に活用していた。
- 授業の流れがわかる構造的な板書になっていた。
- 生徒の実態に即して、前学年の復習を入れるなど、学び直しも意識されていた。
- 教師の説明や指示が多いので、生徒に考えさせたいことを焦点化し、問いを引き出す発問を心がけて欲しい。



3年英語 大城マチ子 教諭

〔授業参観コメント〕 島尻教育事務所：宮良指導主事

- 生徒が協力してしっかり活動に取り組んでおり、学びに向かう姿が素晴らしかった。
- 学びの跡がしっかり板書に残されていた。
- 生徒と英語でやり取りすることを大切にされた授業であった。
- 活動をさせる際の意義を明確にし取り組ませるために、言語活動→中間指導→言語活動を繰り返して、言語活動の充実を図ると、より良い授業づくりにつなげられる。



2年道徳 比嘉愛子 教諭

【授業参観コメント】島尻教育事務所：長門指導主事

- 学習指導要領から道徳的価値について考えさせたいことを焦点化し、具体的な授業のねらいを設定していた。
- 生徒のより良い意見を拾いにくいという課題を解決するためにタブレットを活用し、個々の考えを可視化して共有していた。
- Google Forms を使うことで発表が苦手な生徒も意見表示しやすく、考えの集約も素速くできていた。
- 生徒同士の話し合いを通した対話的な学びや、自分事として考えさせる場も取り入れると良い。

(3) 授業改善の取組（一人一公開授業）

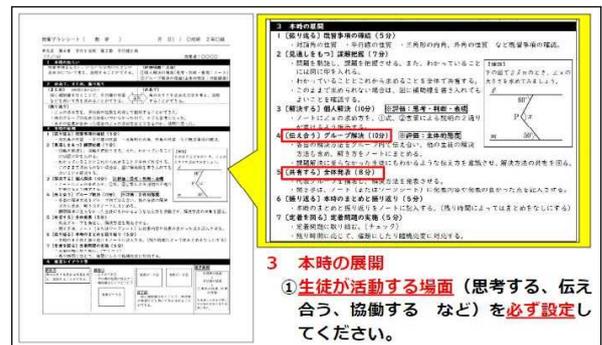
今年度の授業改善の取組（一人一公開授業）を組織的に進めるにあたり、次の点に留意して取組を推進した。

- ①全体会での共通確認（校内研修や職員会議等）
- ②教科会での実施計画作成および授業リフレクションの充実
- ③管理者による授業参観と振り返り

①全体会での実施に関する共通確認

新職員が赴任した4月のタイミングで、今年度の一人一公開授業の進め方や指導案等（プランシート）の様式、授業後の提出物についての共通確認を行った。

本年度は授業の中で、生徒が活動する場面（思考する、伝え合う、協働するなど）を必ず設定してもらうよう依頼してプランシートを作成してもらった。



↑ プランシートの記入に関する留意点を確認

②教科会での実施計画作成および授業リフレクションの充実

一人一公開授業の実施時期について、各教科会で話し合ってもらい、実施予定時期を研究主任で集約し、職員室内に掲示した。また、一人一公開授業後の活発な授業リフレクションに繋がってもらうため、時間割を調整して、同一教科の職員で授業参観を行ってもらった。

公開授業の実施日時を集約し、職員室内に掲示 →

一人一公開授業 予定一覧							
12月	授業者	教科	学年	日	曜日	校時	学年
	赤嶺 直子 先生	国語	2	12月5日	木	3	2年5組
	屋富祖 淳 先生	数学	1				
	金城 真希 先生	理科	1				
	城間 光 先生	英語	2				
	金城 綾香 先生	英語	3				
	仲村 圭達 先生	通級	SST				
	座喜味美咲 先生	通級	対話				
	津田 創一 先生	理科	3	12月	木	4	3年1組
	永山 隆介 先生	社会	2	12月	木	2	2年1組
	宮良 孝 先生	社会	3	12月1日	木	2	3年6組
	桃原 利弥 先生	数学	3				
	渡名喜 優 先生	体育	3	12月1日	木	5	3年3組
	大城 拓矢 先生	技術	1	12月	木	4	1級修(14組)

実施日が決まり次第、系数まで連絡を！

③管理者による授業参観と振り返り

管理者による授業参観の後、校長だよりを通して授業の振り返りを行った。全職員に配布されるため、参観できなかった授業や他教科の実践を共有することができる。

(4) 配慮を必要とする生徒への指導と対応

令和4年6月30日(木)、8月22日(月)の2回の校内研修にわたり、上級教育カウンセラーで臨床心理士の仲村将義先生をお招きし、「個別対応のポイント～気になる子の理解と対応～」と題して講話を賜った。気になる生徒への支援の方法として、教育相談できるリレーションづくりや自己指導力育成面談の進め方について、教師役、生徒役に分かれて場面を設定し、ロールプレイを通じて研修を深めた。

また、研修の最後には、先生方の心の健康についても触れ、マインドフルネス簡便法（筋弛緩法や呼吸法など）を用いた気分転換の仕方についてもご講話いただいた。



講師の仲村将義先生



教師役、生徒役に分かれてロールプレイ



心の健康はマインドフルネスから

〔先生方の感想〕（一部抜粋）

- ・今日の研修は生徒の立場に立って考えることが多くて、生徒の困り感について考え直すことができましたし、様々な角度から質問することで、どんな対応が良いのかをいろいろな視点から考えることができました。
- ・教師側の質問に対して、それなりの反応、返答はあったが、返答しない場面もあり得ることだと思う。そのような場面で落ち着いて対応できるようにしなければならないと思った。説教ではなく、常に傾聴の姿勢で対応していきたい。
- ・自己指導能力を育むための面談の進め方や解決志向アプローチの面談法をやってみて、生徒自身が自分のことをふり返って自分でどうするか考えることが大切だと思った。
- ・解決志向アプローチの面談法で、10段階からできている部分を引き出すこと、そして、+1を自分で見つけていく方法は普段の会話でも十分できることだと思いました。

(5) その他の取組（①小中連携の取組②放課後補習の取組）

①小中連携の取組

大里北小学校、大里南小学校で行われた校内研修に参加し、公開授業を参観した。（それぞれ数学科1名参加）

大里北小学校での算数研究授業のようす →



②放課後補習の取組

10月から毎週水曜日の放課後1時間程度、中学3年生希望者を対象に放課後補習を行っている。

内容は、学力調査フォローアッププリントや県立高校入試過去問題を中心に行っており、地域学習ボランティア「うふざとうぬ会」の先生方の協力を得、毎回20人前後の3年生が意欲的に取り組んでいる。



中学3年生を対象とした放課後補習のようす →

4 成果・課題・改善策

(1) 成果

- 県立総合教育センター指導主事を招聘した理論研修において、「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイントや多様な視点からの学習評価について理解を深めることができた。
- 上級教育カウンセラーの先生を招聘した講話では、配慮が必要な生徒への個別対応のポイントなど、リレーションづくりや自己指導力育成面談の進め方について理解を深めることができた。
- 地域学習ボランティア「うふざとうぬ会」と連携した放課後補習の取組が定着しつつある。

(2) 課題

- 一人一公開授業での授業参観者が少ないので、授業者以外への授業リフレクションの波及効果が低い。
- 授業と連動した毎日の宿題が形骸化しており、自学自習力を高める宿題としての効果が低い。

(3) 改善策

- 学推担当、研究主任と教科主任間で授業改善の取組に関する定期的な意見交換会を設定し、授業リフレクション推進に関する共通認識を深め、教科会を通じた授業改善の充実を図る。
- 次年度の週時程の変更に伴い、自学自習力の向上を念頭に置いた朝の自主活動時間の取組や、各教科の宿題の出し方など、次年度検討委員会で具体的な方策を検討する。

「南城市教育の日」を定める規則

平成 27 年 3 月 25 日
南城市教育委員会告示第 1 号

「南城市教育の日」を定める規則を次のように定める。

（目的）

第 1 条 教育に対する市民の意識と関心を高めるとともに、南城市の明日を担う子どもたちの健やかな成長を願って、学校・家庭・地域及び行政が連携し、市民全体で教育に関する取組を推進するため、南城市教育の日を定める。

（南城市教育の日）

第 2 条 南城市教育の日は、1 月最終日曜日とする。

（南城市教育月間）

第 3 条 南城市教育の日の目的にふさわしい取組を行う月間として、毎年 1 月を南城市教育月間とする。

（補足）

第 4 条 この要綱の定めるもののほか、南城市教育の日に関し必要な事項は、教育長が定める。

（附則）

この規則は、公布の日から施行する。

南城市の教育目標

南城市教育委員会は、生涯教育・生涯学習の理念のもとに、教育基本法に則り、国や県の教育施策との整合性を図りながら、南城市総合計画を踏まえ教育目標を以下のように掲げる。

家庭における教育力の向上

知・徳・体の調和の取れた幼児・児童・生徒の育成

生涯学習の理念のもと積極的に学ぶ市民の育成

市民性教育（シチズンシップ教育）の推進

南城市民としてのアイデンティティーの確立